

もっといい明日が見えてくる - Letters from Gnoble

保存版

vol. 25

2020年7月発行

東大合格
特集号

医学部合格者
インタビュー併載

Gno G-let

グノレット



グノブルを活かし、最大の効果を上げるヒント満載。
14期生の合格者インタビュー特集。



Gnoble GROUP

CONTENTS

14期生 合格者インタビュー

東京大学 **文系** P1-12

東京大学 **理系** P13-31

国公立・私立大学 **医学部** P32-47

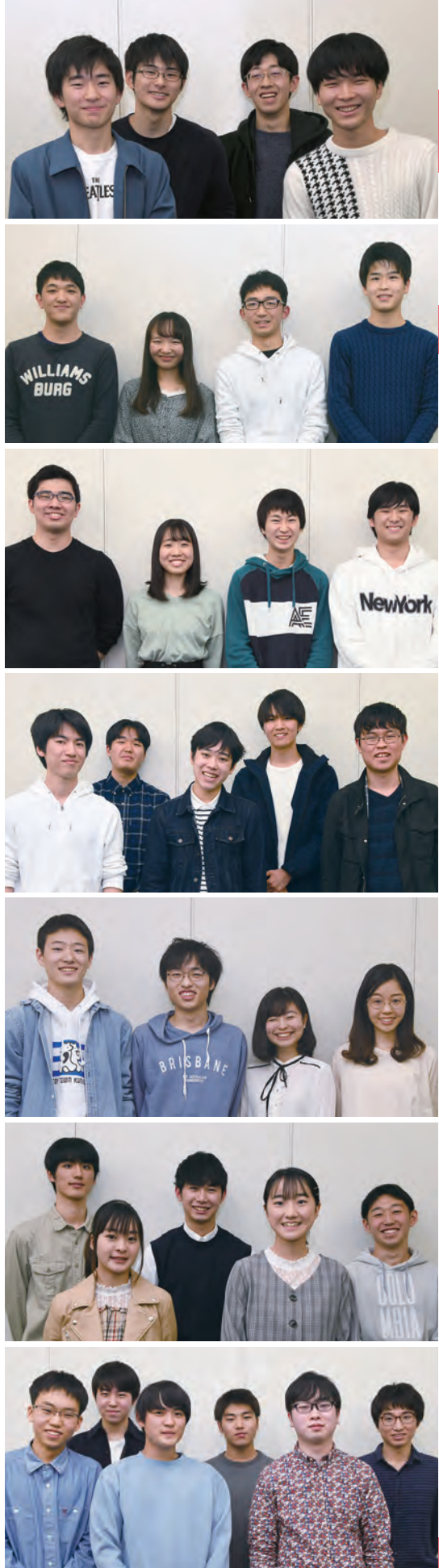
2020年東京大学・医学部合格者インタビューをお届けします。

膨大な情報量になっていますが、グノーブルを活かして最大の効果を上げるためのヒントがぎっしり詰まっていると思います。これから大学受験をされる皆さんには、マーカー類を片手に、気になる発言や参考になりそうな箇所に印をつけながら全編に目を通すことをお勧めします。

勉強を進めていく時に大切なことは、先輩の体験や先生の助言を参考にしながら、徐々に自分に合った勉強法を確立していくことです。このグノレットの中に、お手本にできることがあれば、ぜひ、お試しください。

また、勉強に行き詰まったり、気持ちが折れそうになったり、迷いが生じることもあるでしょう。そんな時には、改めてこのグノレットを開いて先輩たちの声に耳を傾けてみてください。きっと勇気をもらえると思います。

2020年7月 グノレット編集部



14期生 合格者インタビュー

東京大学

【座談会出席者】（五十音順、本文中敬称略）

Part 1



あかさか けいすけ
赤坂 恵祐さん
(文Ⅲ・駒場東邦)



ささはら りく
笹原 陸さん
(文Ⅱ・麻布)



ひろた ゆういちろう
廣田 雄一郎さん
(文Ⅰ・駒場東邦)



やすだ ゆうた
保田 優太さん
(文Ⅰ・早稲田)

Part 2



あべ ひろゆき
阿部 央幸さん
(文Ⅲ・麻布)



こじま たつや
小島 達矢さん
(文Ⅲ・芝)



はぎわら けんすけ
萩原 健介さん
(文Ⅲ・芝)



もとむら ひかる
本村 日香留さん
(文Ⅲ・都立小石川中等教育)

東京大学 文系 Part 1

あかさか けいすけ
赤坂 恵祐さん（文Ⅲ・駒場東邦）ささはら りく
笹原 陸さん（文Ⅱ・麻布）ひろ た ゆういちろう
廣田 雄一郎さん（文Ⅰ・駒場東邦）やす た ゆう た
保田 優太さん（文Ⅰ・早稲田）

周りの生徒のレベルの高さが良い刺激となりました。みんな積極的だし、すごい人がいっぱいいて、「こんなすごい人がいるんだ」と思うことが何度もありました。グノに通ったのがきっかけになって、レベルの高い友達と知り合えたのも、人生における財産です。

保田 優太さん（文Ⅰ・早稲田）

東大志望の動機

保田：高校2年の終わり頃に決めました。中学まであまり勉強に真面目に取り組んでいませんでしたが、高校に入ってから、真面目に取り組むようになるにつれて、「いろいろなものに幅広く触れておきたい」という思いが強まりました。

東大は、最初の2年間、駒場で幅広い教養を学べるのに魅力を感じました。僕の学校は推薦枠が多くて、「推薦を取ったら楽かな？」と思っ

た時期もありましたが、自分の限界を試したくて、東大志望を貫きました。

笹原：高2の秋に進学資料が配られた時、「そろそろ勉強を始めないといけない」と思いました。

最初は一橋大を志望していましたが、冬に学期毎のテストで思ったよりもいい成績を取れたので、「東大を目指すのでは？」と思って志望を変更しました。

赤坂：僕は高3の春に決めました。理由はふたつあります。ひとつは、陸上部の先輩が東大に受かって、その先輩と仲が良かったこともあり、純粋に「すごい」と思ったからです。僕はその先輩を尊敬していたので、「自分も東大を目指そう」という気持ちになりました。

もうひとつは、妥協が嫌いな性格なので、やるなら最難関を目指したかったからです。

廣田：僕も赤坂君と同じで、部活の先輩への憧れが動機です。先輩方は皆さん、部活も勉強も頑張って東大に合格していて、最初は漠然と憧れていました。

高校生になってから、東大のキャ

ンパスを訪問して教授の講義を受ける機会がありました。その時、講義のレベルの高さに驚くと同時に、新しい考え方にも触れられて、「こういう環境で勉強したい」と思い、志望が固まりました。

入塾のきっかけ

廣田：僕がグノに入塾したのは高1の春です。もともと英語の成績が良くなかったので「塾に入ろう」と思って友達や成績のいい同級生に話を聞いたら、グノに通っている人が多いことがわかりました。

東大に合格したテニス部の先輩にもグノ生が多かったです。実際に春期講習を受けたら、先生に指名されるシステムで緊張感があり、そういう授業のほうが好きだったので、入塾を決めました。

赤坂：「高校生になったら塾を探そう」と思っていたので、高1の夏期講習を受講しました。

駒東にはグノに通っている友達が多くてグノの評判も聞いていました。実際に夏期講習に通ってみて、その場で問題を解いて添削してもらえる



笹原 陸さん（文Ⅱ・麻布）

スタイルが気に入って、「ここにしよう」と思いました。

笹原：僕も高1の夏からです。もともと塾に行く気はありませんでしたが、友達が「高校生になったし、そろそろ塾に行くか」と言い始めて、一緒に評判の良いグノの講習に参加しました。積極的に授業に臨める雰囲気があったので、入塾を決めました。

保田：僕は皆さんと違って他塾から移ってきました。他塾では先生が黒板に英文を書いて「ここまでがSだよ」「SVOに分けて、ここはこういう意味だよ」などと解説します。

それが一般的な英語の授業なのですが、僕にとっては退屈で、「何とかならないかな？」と思っていました。そこで、いい評判を聞いていて、通っている人も多いグノに、高2の夏に足を運んでみたところ、最初の授業の解説で、先生がアフリカの地図を描きながら「君たち、奴隷貿易って知ってる？」と話し始めたんです。

受験の枠に収まっていない英語の授業は初めて受けました。「こんな授業があるのか？これ本当に英語の塾なの？」と目から鱗でした。ただ英語のことを教えてもらえるだけでなく、英文の周辺知識や背景知識

を絡めて話してもらえるのがうれしくて、「絶対この塾に入ろう。グノしかない」と思って入塾テストを受けました。

グノーブルの印象

笹原：グノは単語の説明が独特で、市販の単語帳の暗記をしない勉強法を勧めます。それに、他塾と比べて音読にも力を入れています。入塾時は特に比較しませんでした。その後いろいろな人の話から他塾の英語の勉強法と違うことがわかり、グノーブルの素晴らしさを改めて実感しました。

麻布のグノ生は、学校でもグノの英語の話をしている、いつもグノの授業を楽しみにしている雰囲気がありました。

保田：早稲田はグノに通っている人がかなり多かったので、グノの授業であったことをよく話していました。

グノ生は音読を大事にしている、「自分はグノに通っている」という意識も誇りも強い人が多かったです。もちろん僕にもグノ生としてのアイデンティティーがありました（笑）。
赤坂：駒東は、僕の周りにもすぐそこにグノ生がたくさんいるみたいな状況でした。「昨日のあそこが難しかった」「あの要約は良かった」などの話をしたり、「語源はこうだよ」と先生の体を使った動きを物まねして遊んだりしてました。

廣田：そういうのはかなりありましたね。グノの授業のことはよく話していました。要約では、いい意味で厳しく採点してもらっていたのですが、その中で満点を取った人がいると、一気に噂が広まっていた。

グノーブルの英語

廣田：グノらしさはやはり本質を理解することだと思います。

英単語に関していえば、語源イメージがあって、そこから派生して意味が出てきます。

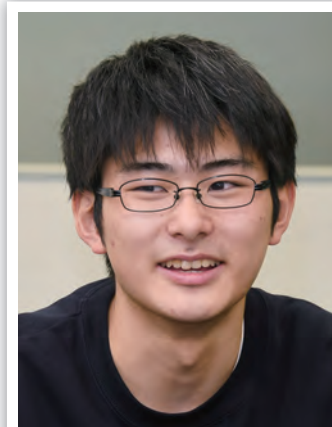
英文の場合だと、筆者が伝えたいことが本質です。グノでは、筆者の伝えたいことや、どのように文全体を組み立てているかに焦点を当てて解説されます。

市販の単語帳をワーストと覚えるよりも、グノのようにあらかじめ本質を理解しておく、やるべきことの量が少なくすむし、ニュアンスもより伝わってくると思います。英文の内容もより深く理解しようとする姿勢が身につきます。

暗記や問題集をこなす量は少ないのに、合格実績も素晴らしいグノの指導の良さは、学校のテストや模試でも実感していて、「この塾でやっていることに間違いはないんだな」と思っていました。

グノでは、英語だけにとどまらない知識、しかも一般的なニュースではカットされるような情報まで英語で知ることができて、そこも魅力のひとつでした。

赤坂：僕はもともと英語を単なる受験科目のひとつだと思っていました。英単語も英文もアルファベットの羅列でただの記号だから、たとえテストで点数を取れても面白くない、と



廣田 雄一郎さん（文Ⅰ・駒場東邦）



赤坂 恵祐さん（文Ⅲ・駒場東邦）

思っていたんです。

グノに入ってから英語の勉強自体が楽しみに変わりました。グノだと、教材で扱う英文を通して筆者を身近に感じたり、社会の一部を垣間見ることができます。難解な英文を解釈することで得られるものが、自分の中で大きな意味を持つようになり始めました。

笹原：教材のレベルが高いですね。東大の過去問を解き始めたら、グノの教材のほうが難しいし、深いと感じました。

時事的なネタも多くて、ひとつの英文から学べるのがたくさんあり、本当に力がつきました。グノの1回の授業で扱う英文の量自体も膨大で、様々な考え方や世界に触れられました。

保田：そもそも他塾が生徒に求める力とグノーブルが生徒に求めるものは違うのではないかが僕の個人的な見解です。

他塾では生徒に英単語の暗記、英文をSVなどに分ける力を求めます。そして、それらをベースとした受験での得点力を求めているのだと思います。「東大や京大で1点でも多く取るにはこうするといいよ」というのを手取り足取り教えている感じがします。



保田 優太さん (文I・早稲田)

一方、グノーブルの先生方は、「点数を取りなさい」とおっしゃったことは一回もありません。英文をスラスラ読む力、深く読む力、教養の幅を広げること、筆者の主張を的確に読み取ったり、筆者がどんな表情でその文を書いているかさえも感じ取れるようになることを重視しています。

つまり、本質を理解する吸収力を生徒に求めているのではないかと思います。そして、先生方は、そのために大事なことを全身を使って伝えてくださり、生徒たちも音読を繰り返すことで、一生懸命成長しようとしている、という環境がグノにはあると思います。

ただ、グノに入塾する全員が「楽しい」となるかといえば、そうとは限りません。吸収するためには、生徒側の扉もオープンになっていないといけません。グノの教室がいつも生き生きとしていたのは、新しいことに触れて「面白い」と思える生徒が多かったからだだと思います。

廣田：僕もグノの授業をととても楽しんでいました。科目としての英語を学べるだけではなく、英語を通していろんな考え方や知識に触れられて、世界がどんどん広がっていくのがグノの英語です。

それに、授業スタイルも自分に合っていました。演習してその場で添削してもらえて、すぐに解説が受けられるので、「良い結果を出すぞ」と奮起して授業に臨めました。そのあとの解説の時間は、合っていたらうれしいし、間違っていたら悔しいけれど「そういう考えなのか」と納得できるので、どちらの場合でも深く吸収できました。

赤坂：教材として扱われている題材が幅広いのは魅力でした。普段、新聞を読む時などもそうですが、読む文章を自分で選ぶとどうしても偏ってしまいます。



赤坂 恵祐さん (文III・駒場東邦)

グノの英文では、医学や法学などにも触れられたし、様々なことに知見を得ることができました。英文を読みながら「こういうのもあるんだ」と自然と興味が湧きました。好奇心が芽生えていくような仕組みがグノにはあったと思います。

笹原：確かに英文のレベルが高いし、扱う分野も様々だったけど、先生の解説が丁寧で面白かったから英文を楽しめたのだと思います。

解説を聞いて楽しみながら理解できたので、毎回すっきりした気持ちで帰りました。先生が授業中におっしゃっていたことを思い出しながら取り組むと復習もはかどりました。高3ではグノの授業とその復習だけで英語の授業は十分で、他の問題集は全く必要なかったのも、他科目に時間を割けて助かりました。

保田：僕も英語の勉強はグノだけで完結していました。

復習の中心は音読です。「ここに大勢の聴衆がいるんだ」という気持ちで音読していました。学校でまるまる一教室を自習室として貸してもらい、僕が教壇に立って、目の前に全員座っているのをイメージしながら、クラス中に語りかけるように英文を読んでいた。

笹原：単調に読むのではなく、リズムをつけて実際に話すように気を使って音読していました。

誰かに聞かせることを想定して英文を声に出すとなると、つかえた

り戻って読んだりできません。だから、筆者の言いたいことを理解して、自分がその英文を書いたつもりで、リズムをつけて読みました。

音読していると、授業中に自分がわからなかったところを考え直すきっかけにもなりました。そのおかげで、前から読んでいく力や単語力もついたし、深く解釈する力も身につきました。

赤坂：僕は歩き回りながら音読したり、人形を並べてその前で音読したりしました。単調に読むのではなく、「人に伝えよう」と頑張りました。

廣田：グノの音読は本当に役に立ちます。

誰かに伝えることを意識して、部屋の椅子に立って身振り手振りをつけながら、演説みたいな形で読んでいましたが、自分が理解していないと誰かに伝えられないので、英文の復習も濃いものになりました。

英語の力が伸びた時期

笹原：伸びた時期は2回あります。1回目は高1の冬です。僕は $\alpha 4$ のレベルで入塾しましたが、クラス分けテストで $\alpha 5$ に落ちてしまい、さすがに「まずい」と思って単語や基本的な文法を勉強し直したらクラスが上がりました。

2回目は高2の冬頃、つまりグノで新高3の授業が始まってからです。その頃から真剣に音読を始めて、高3の春から夏にかけて読むスピードが上がり、英文の理解力も上がりました。

廣田：高1でグノに入ってから半年くらいたってから、学校のテストでも順位が上がって、数字として自分の英語力が伸びていると感じていました。

次は高3になって、学校で友達と集まって音読するようになってからです。1時間くらいかけてしっかり読み込むことを続けていたら、グノ

の授業内の演習で格段に読むスピードが上がりました。

赤坂：高3の夏に初めて東大模試を受けた時は時間が全然足りませんでした。でも、直前期になって過去問を解いてみたら、時間が余って「あれ？」となり、力がついていることを実感しました。

文法的におかしいところを見つける正誤問題も感覚的にわかることが増え、読むスピードも速くなっていました。

こうした“英語らしさ”をつかむことができたのは音読のおかげです。音読をしたからといって1週間で成績が伸びることはありませんが、4、5か月と続ければ必ず伸びます。ちょっとずつでもいいので毎日音読を続けることが大切だと思います。

笹原：僕も高3夏の東大模試では点数が取れませんでした。グノからは「過去問はセンターが終わってからでいい」と言われていたので、「信じるしかない」と思って、センターが終わるまで本当に手をつけませんでした。

センター終了後、実際に東大の過去問を解いてみたら、時間も厳しくなく、力がついているのを実感しました。おかげで、受験本番には不安のない状態で臨めました。

保田：僕は皆さんと違ってガッツと伸びた時期はありませんが、ゆっくり成長していったのは成績や結果を見ればわかります。

周りには東大の過去問をたくさんやっている人がいて、そういう姿を見ていると不安に感じることもありましたが、それでも、グノの勉強で力がついていることは実感していたので、グノを信じていました。本番ではかなり手応えがありました。

赤坂：僕も不安はありました。自分の学校の合格体験記を読むと、「高3の夏から過去問に取り組もう」というアドバイスがあって、それを読

んで「俺はまだやったことないぞ」と思ったからです。それでも結局、初めて過去問を解いたのは2月に入ってからで、しかも3年分しか解きませんでしたが、本番は大丈夫でした。グノの勉強をやっていたら底力がつくのだと思います。

廣田：僕の場合は全く不安はありませんでした。同じ学校の合格体験記に、成績の良かった先輩が「英語はすべてグノーブルに任せました」と書いていたので、「先輩がこう言っているんだから、そのとおりなんだろう」と思っていました。

グノーブルの国語

赤坂：東大国語の先生がとても明るかったのが印象的です。

現代文では、抽象的で何を言っているのかわからないことも、先生の具体例でみんなが大笑いでした。その上、具体例は「なるほど」と腑に落ちるものばかりで、毎回「この先生はすごい」と感心させられました。

笹原：僕は以前、他塾で国語を受けていましたが、過去問をただ解いて、その解説を聞いているだけでは実力が伸びるのかわかなくて、添削が甘すぎて成長にはつながらないという印象を持っていました。

「グノーブルは国語もいい」と聞いていたので、途中からグノに移りました。添削が厳しすぎて全然点に



笹原 陸さん (文II・麻布)



廣田 雄一郎さん (文Ⅰ・駒場東邦)

はならなかったのですが(笑)、課題が浮き彫りになって、自分の解答をさらに良くする努力ができました。直前期の過去問が尽きる頃にも、先生のオリジナルの問題が用意されていて内容の濃い演習ができました。

グノーブルの先生

保田：講習や振替も含めたら6、7人の先生に教わりました。

グノの先生はどの先生もパワフルで、全身を使って身振り手振りを交えながら教えてくださるので、「伝えよう」という熱意をいつも感じていました。

それから、生徒を管理することがなくて、生徒の主体性を重んじてくださったのも印象的でした。

笹原：授業が単なる作業になっていなくて、「教えるんだ」という意志がいつも、グノの先生からは伝わってきました。

解説の時だけではなくて、プリントを用意している時も、教室に入ってくる時もエネルギーに満ちていて、いつでもやる気いっぱいなんです。だから、「自分も頑張らないといけない」と思いましたし、授業内容も入ってきやすかったです。

赤坂：グノの先生は「伝えたい」という思いが強いです。英文を解説して終わりではなく、英文の周辺知識の話も多く、教養の深さにも、それをパワフルに語るエネルギーにも感

動してました。

廣田：先生方の元気と教養の深さに魅了されて、心の底から尊敬できました。

だからこそ、添削で褒められるとうれしいし、厳しいことを言われても「そうだよな」とすんなり受け入れられました。

グノーブルの環境

廣田：一番良かったのは振替のシステムです。僕は高2の2月まで部活をやっていた、いきなり試合や練習が入ってしまうこともありました。そういう時、グノはギリギリまで振替が可能で本当に助かりました。

赤坂：学校の体育祭でどうしてもグノに行けない日があった時、僕を含めた友達3人のために先生が授業をしてくださいました。普通の塾では絶対にしてくれないことなので、本当に感謝しています。

笹原：僕は「これをやれ」と強制されるのが好きではなかったの、押し付けられずに勉強できて良かったです。グノでは自分から「これやりたい」という思いで勉強ができました。

それから、自習室が空いていて伸び伸び勉強できたのも、人が多いのが苦手な僕にはありがたかったです。

保田：周りの生徒のレベルの高さが良い刺激となりました。

グノの授業は先生と生徒のやりとりで進みますが、みんな積極的だし、僕よりもはるかにすごい人がいっぱいいて、「こんなすごい人がいるんだ」「この人の言ってることはすごい」と思うことが何度もありました。グノに通ったのがきっかけになって、全く接点のなかった人と喋るようになったり、レベルの高い友達と知り合えたのも、人生における財産です。

後輩へのアドバイス

保田：僕は文系で、もともと理系科目が嫌いでした。でも、グノで理系の英文に触れて、理系科目も段々と好きになっていきました。

最近、話題になっている『LIFE 3.0』を読んでいるところですが、「あ!？ グノでやったことだ!」と何回もなってワクワクしています。

受験が終わったあともワクワクできる体験がグノにはあります。そのためにも自分が好きではない学問への扉をオープンにして、グノの授業を楽しんでもらえればと思います。

廣田：グノは復習をメインにしている塾ですから、特に高1や高2の時期は宿題が少ないです。宿題に追われて忙しいと勉強している気になりがちですが、そういう勉強は主体的な学びではないと思います。

せっかく宿題の少ないグノに通っているなら、復習しながら、自分と向き合っていくのがいいと思います。「自分に何が必要なのか?」と考えることが、グノで英語力を高めていくのに必要です。そういう勉強をしていると、自立的な力が高まります。

笹原：クラスみんなの「やるぞ!」という感じに押されずに、良い刺激にするといいです。

グノにいれば、英語が好きな人はいっそう英語が好きになるし、苦手な人でも英語を好きになるきっかけを得られます。



保田 優太さん (文Ⅰ・早稲田)

赤坂：東大合格の目標を決めたら、自分に何が足りないかを分析しましょう。そして、「文法が弱い」「速読力がない」などと判明したら、グ

ノのテキストに戻って弱い部分をとことん突き詰めてください。

一番大事なのは毎日音読することです。英語の弱点はすべて音読で克

服できます。音読の時間を増やしたり、困ったことがあったらすぐに先生に相談しにいけば、英語力を確実に上げることができると思います。

東京大学 文系 Part 2

あべ ひろゆき
阿部 央幸さん (文Ⅲ・麻布)

こじま たつや
小島 達矢さん (文Ⅲ・芝)

はぎわら けんすけ
萩原 健介さん (文Ⅲ・芝)

もとむら ひかる
本村 日香留さん (文Ⅲ・都立小石川中等教育)

グノの先生はどの先生も、生徒一人ひとりに親身に向き合ってください、授業はどんな時も真剣そのもので、そんな先生方の姿勢がいつも励みになりました。「グノの先生についていく」という気持ちをいつも持っていました。

本村 日香留さん (文Ⅲ・都立小石川中等教育)

東大志望の動機

萩原：東大に決めたのは高2の後半です。もともと志望校が特になく、学校の先生方に「東大を目指してみたらどうか?」と勧められたのがきっかけです。

調べていくうちに、教養学部で2年間学んだあとに進路を決められることがわかり、大学入学後にやりたいことを見つけられるところにも魅力を感じました。

小島：僕も高2の秋です。高1の文理選択で、当時は法学部志望だったので文系を選びました。でも、高2の時に都市工学を学びたくなり、「理転したい」という思いが募りました。

東大には3年進級時に学部を決められる進振りがあるので、そこで理転することを目標に、東大を目指す

ことにしました。

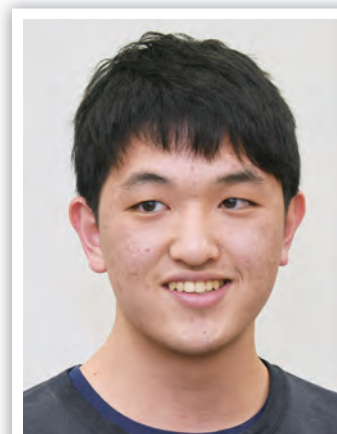
本村：私が東大志望を決めたのは、おふたりより遅くて高3の4月です。もともと他の国立大学を志望していましたが、同じ学校の同級生がレベルの高い大学を志望していたのに感化されて、「私ももっと上を目指してみよう」と思ったのがきっかけです。東大で文化の研究をしたいという明確な目標も見つけられました。

阿部：僕も高3の4月に決めました。中学受験した時、周りから「阿部ちゃんは東大だよ」と言われていて、自分もその言葉に背中を押され東大を受けることにしました(笑)。

特にやりたいことが決まっているわけではないので、入学後に考えられるのも東大の利点だと考えています。

入塾のきっかけ

本村：中学2年まで地元の個人塾に通っていました。中2のうちに中3の内容が終わっていたので、中3に上がる時、塾から「うちでは教えら



阿部 央幸さん (文Ⅲ・麻布)

れない」と言われてグノーブルを勧められました。それで、中3の4月からグノの英語に通い始めました。

萩原：高2の秋から通い始めました。それまでは1対1の個別指導塾に通っていましたが、英語が伸び悩んでいました。グノに通っている友達は英語の成績が良かったので、それに感化されて入塾を決めました。

小島：グノに通っている部活の先輩に「グノに行け」と思いきりプッシュされ、「通ってみよう」と思いました。

中3の夏に英語を受け始めて、高2の秋から数学、高3で東大国語をとりました。

阿部：中1の終わりから通い始めました。僕は勉強していなかったで、心配した親から「グノーブルは音読がすごいし、音声教材もあるから、入っておきなさい」と強く勧められました。

グノーブルの話題

阿部：僕の高校では同じクラスのア行の人たちはグノ生ばかりで（笑）、要約の点数で勝負したり、授業の話題で盛り上がっていました。グノ生が多かったので、他塾の話はほとんど出ませんでした。

小島：グノの先生の話で盛り上がり、先生のまねをする人がいたりしました。

「グノは独特でレベルの高い塾」と周りからも認識されていた気がします。

萩原：学校ではグノ派閥があって、「テストどうだった？」というような話で盛り上がり、みんな楽しそうでした。

僕は高3の夏まで低いクラスをさまよっていたので、クラス分けテストで調子が良い人たちの中では、端っこでうつむいていました（笑）。でも、クラスが上がると、要約を競

い合ったりして、英語の力が伸びているのも実感できました。

本村：私の学校の仲良くしていた人たちは塾がバラバラで、他塾の夏期講習などの話をよく聞きました。そういう他塾の人から見て、「グノは料金設定が高くないのに、良い授業をしてくれる」という認識だったようです。

逆に私から見ると、他塾の人は「来週までにこれをやらなければいけないんだ」と苦しそうにしているのが気になりました。

私は、グノに通って勉強できること自体が楽しかったので苦痛ではなく、いつも「良い受験生生活を過ごせている」と思っていました。だから、他塾の話を聞いて、改めてグノの良さを実感していました。

グノーブルの英語

本村：私がグノの英語で印象に残っているのは、語源の学習をちゃんとやってくれたところです。

漢字だと、ニンベンがついていたら人を表すとか、キヘンがついたら木を表すとか、部首を学びます。

英単語にも語源があって、それを学ぶことで単語を一つひとつバラバラに覚えるのではなく、「これとこれは同じ語源を持っている」というつながりで覚えられました。

単語に色をつけて、印象的に定着させられるのが楽しかったです。

語源を学習したおかげで、未知の単語と出合っても「あの時のあれと仲間だから、こういう意味かな？」と推測できるようになりました。このやり方で単語が定着していった、英語の文章を読むのが楽しくなり、やりがいが出てきました。

萩原：どの先生方も英語を英語のまま読むことを推奨なさいます。

学校の先生は一文一文和訳する逐語訳ですが、グノの先生は「英語の



小島 達矢さん（文Ⅲ・芝）

まま文と対話しなさい」とおっしゃって、返り読みせずに読むことを意識させてくださいました。

小島：先生方が深く英文を理解されていて、解説がとても丁寧でした。

ネイティブの人は同じ言葉を何度も繰り返さずに言い換えていく、というのを教えてもらったのもグノの授業です。

先生に「これは今まで出てきたどの単語の言い換え？」と問われて、みんなで競争して探すのも楽しかったです。

英文全体を踏まえて、筆者はどうしてこういう言葉を使い、こういう文章を書いたのかという論理の流れや筆者の思いも自然とわかるようになってきました。

英文を深く理解できるので、要約する時も「この文がメインで、この文は補強で……」と見分けられるようになりました。数学や国語など、すべての科目を勉強する上で必要となる論理的な頭の使い方を学べました。

阿部：英文解釈の時間がいつも面白かったです。タイムリーな話題だったり、思わず引き込まれる内容だったり、難解すぎて謎だった英文が先生の解説でパッとわかる経験ができました。とにかく僕たちが飽きない英



萩原 健介さん（文Ⅲ・芝）

文が毎回用意されていました。

毎週、添削をしてもらえますが、その採点が良い意味で厳しいので、1週間に1回、気持ちをリセットして、「さあ、今週はやるぞ」と真剣に取り組めました。

小島：用意される英文プリントの中には、日本語に訳せることは訳せるけれど、訳した日本語を読んでみてもよくわからないものが時々ありました。僕の場合、哲学や自然科学がテーマだとなおさらでした。

グノの授業の醍醐味はその先です。先生が背景まで含めて詳しく説明してくださったので、深く理解できましたし、筆者の表情や思いまでも想像することができて、本当に面白く、幅広く知識が身につきました。

本村：確かに受講しがいのある授業でした。

グノの英語で真剣に取り組むのは、英語を文法的に理解することではなく、英語で書かれた文章の内容を味わったり、その英文から新しいものの見方を学んだりすることです。

グノ以外に通っている友達の中には、「問題は解けるけれど、この英文が何を言っているかわからない」と言う人たちが結構いました。正解はできるけれど、文章としては読めていないようでした。

グノに通っていた私は、もちろん問題を解けるし正解もする上で、文章の内容を理解して味わうことが普通にできるようになっていきました。

萩原：僕は上位のクラスに上がった頃、要約の問題への取り組み方がよくわかっていなくて、「最初と最後を書いておけば何とかなるだろう」と考えて適当に書いていました。

そうしたら毎回落胆する点数ばかりで、そこで初めて、文を読むにはどんな姿勢で臨めばいいのかということに真剣に向き合わなくてはならなくなりました。

文は筆者と対話しながら読むということ、筆者がどう段落を組み立てているかをちゃんと考えること、その上で筆者の主張が述べられている部分を的確に切り取るのだとか、そういった、先生が強調しているポイントが段々わかるようになりました。

教えていただいた大切なことを身につけるため、復習を続けているうちに実践できるようになりました。それには音読がすごく役立って、最後のほうは満点の10点を取れるようになりました。

阿部：僕も音読していました。英文を読み直すことがなくなって、パパパッと速く読めるようになりました。そうすると、単語の意味や筆者の言いたいことを考える時間が増えるので、テストでも自然と点数が伸びます。

先生は「黙読だけだとダメだ」とおっしゃっていて、それを信じて音読していたら、確かに音読の効果を実感できました。

小島：音読を続けていると、黙読している時も頭の中で音読している感覚になります。そうすると一気に読むのが速くなります。

僕は他教科の勉強に追われて、夏に音読していませんでした。すると、9月くらいに読むのがとても遅く

なって、激しく後悔しました。そこからまた音読を続けたら元のスピードに戻りましたが、音読を一度やめると直すのに時間がかかると身に染みてわかりました。

萩原：音読の大切さを教えていただいたことで英語ができるようになったと言っても過言ではありません。最初は音読の大切さを理解できずでしたが、とにかく言われたとおりに音読を続けていたら、英文が頭の中に英語のまま入ってくるようになりました。

先生の解説を聞いて、電車で黙読して、家で授業内容を思い出しながら音読することを習慣にしました。夏期講習の内容を何も見ないで思い出せるくらい読み込んだり、家でスピーチをするように読んだりしていました。

黙読だけよりも、声に出したほうが情報処理が大変なので鍛えられます。音読を習慣化することで黙読も速くなって、筆者の主張をいち早く汲み取れるようになるのは確かです。

本村：私は中3で入塾していながら、音読を本格的に始めたのは高3からです。

それまでは音読をちゃんとやらなくてもそこそこの成績がとれていた

ので油断していましたが、高3に



本村 日香留さん（文Ⅲ・都立小石川中等教育）



阿部 央幸さん (文Ⅲ・麻布)

入ってから英文のレベルも上がって「音読をやらないとまずい」と思いました。

始めるのが遅かったのでなかなか成果が出せんでしたが、続けているうちに英語を読むスピードが上がったと感じました。黙読だと受け身になりますが、声に出すことで聴覚も使うし、声帯を震わせながら読むので、英文の内容が頭に入ってきてやすいです。

そして、授業で別の英文を読んだ時に「これは9月に読んだ英文と内容が似ている」と記憶が結びつくこともありました。英文を読むスピードが速くなって、背景知識も補強できて、音読は本当に大切です。

直前期の冬も家で音読していました。そのおかげで、東大入試当日も、英語の試験で見直しに時間を割けるほど速く読めました。

以前の私には東大の第5問の長文が難しく、途中の段落までしかしっかり読めなくて、それ以降の問題は全部不正解という感じでした。きちんと読めないと当てずっぽうになってしまい、正解できません。

でも、入試当日は、第5問も最後まで理解できて、ちゃんと実力がついているのを実感できました。

萩原：僕は東大の過去問の英語は3年分しか解きませんでしたが、グノで直前に読んだ英文のほうが、東大よりも難しい印象を受けました。

本番も東大は5分くらい時間が余

りました。

小島：時間という点でいうと、グノのクラス分けテストのほうが時間的に厳しかったです。東大は丁寧に処理していけば良心的な時間設定で、時間が厳しいというほどではありません。

僕も本番では余った時間でライティングの見直しなどをしました。

阿部：グノの英語の特徴といえば、「過去問はそこまでやらなくていい」というのもあります。周りの人たちが「25年分の過去問を全部解こう」と言っているのとは逆です。

このことについて、僕はグノを信じていたので、不安はありませんでした。1年分を受験前日に解いた程度です。その代わりグノの復習は丁寧にやっていました。

実際に英語ができるようになったので、グノが正しかったのだと思います。

萩原：僕も、「過去問は傾向をつかむためのものだから、やり込まなくてもいいよ」とおっしゃるグノの先生方を信じて良かったと思います。

過去問よりも、グノの授業で扱った文章を何回も復習したほうが勉強の密度が高かったです。

他の人が過去問を何年分も解いていましたが、それは気にしないで、グノの教材の復習に力を入れていました。直前期に過去問を3年分取り組んでちゃんと解けたので、改めてグノを信じたほうが効率的だと思いました。

小島：僕は、去年の合格者座談会にいた松下先輩*からの英語や数学のアドバイスを読んで「グノを信じるしかない」「松下先輩が言うなら、信じれば救われるだろう」と思っていました。

そして、グノの先生のおっしゃることを信じて勉強していたら、本当に救われました。

本村：私も、英語の過去問は全然解

きませんでした。直前期に傾向と時間配分をつかむために解いたくらいです。

グノで配られるプリントは、教養が深められるし、時事問題にもアンテナを張っている先生方がチョイスした英文です。こちらをメインに勉強したほうが納得しやすくて力がつきました。

英語の力が伸びた時期

阿部：僕は中1からグノに通っていましたが、高3になるまで「何してんの？」という感じでした。

でも、そこから勉強し始めて伸びました。夏休みには、得意な社会の代わりに英語に時間を割いて、音読にちゃんと取り組んだらクラスが上がリ、伸びを実感しました。

小島：グノに通っている時は、授業の演習に毎回苦労していたので成長を実感できてはいませんでした。今、考えてみると確かに成長できていたと思います。

本番でも、第1番のBをかつてない速さで解き終わって、これ以上ないほど正解を確信できたので、残りの問題にも自信を持って臨めました。

萩原：僕は本番では1番のBで悩みましたが(笑)、結局正解していたみたいです。

僕の場合は、普段の授業のSumming-up(英文要約)の時に成



小島 達矢さん (文Ⅲ・芝)

長を実感していました。

下のクラスにいた頃は「自分は英語が得意だ」と言い聞かせていましたが、クラスが上がってからは周りの人と自分を比べて「自分は英語が苦手だ」と思い気合が入りました。

上位クラスでは、授業で扱う英文の量が増えました。演習量が増えて復習すべきものが多くなっても頑張っていたので伸びたのだと思います。

本村：私はグノに入る前から英語が好きで面白いと思っていましたが、グノの授業を受けてからさらに英語が面白くなりました。

グノの先生は話すスピードが速い先生ばかりなのに授業時間も延長です(笑)。毎回の授業が濃密で、最初はそれについていけませんでしたが、授業で頭がヒートアップして、家に帰ったらぐったりしました。

でも、1か月たつと慣れたのか、今度はグノのテンポの授業でないと「遅い」と感じるようになりました。グノの先生は、英語だけでなく英語以外の知識も豊富で、英文の裏側にある教養の部分も教えてくださいました。そこから「英語にはもっと面白いところがこんなにあったんだ」と気づきました。

私はずっとαクラスでしたが、αのレベルも段階的に上がっていきます。その流れに振り落とされなかったのは、授業と知識面での復習と音読の3つを大切にしたらだと思えます。

グノーブルの数学

小島：僕はいわゆる「数学弱者」で、ものすごく数学ができませんでした。文系なのでⅠAⅡBですが、それでも使うツールが多くて、問題を解く上でどの解法を選んだらいいのかわからなかったんです。

でも、グノでは、「どの道具を使う

か？」や「どういうふうに知識を組み合わせるのか？」について、必然的な動機があることを、体系化された板書で教えてくださいました。

そのおかげで、「数学弱者でも後天的な努力で何とかできるんだ」と思えました。

それから、グノのセルフチェックシートには本当にいろんな効果があります。

まず、自分が解けなかったことを思い知らされ、自分の無力さと向き合えます(笑)。

次に、書くことによって明文化されるので、自分がどういう思考過程でそのミスに至ったかがわかり、「次に同じミスをしないようにしよう」と思えました。

自分がピンチになった時のくせもわかるので、どこを潰していけばいいかということもはっきりします。

グノで数学を受講していたので、世間の数学の勉強よりもやるべきことが明確化されました。

グノーブルの国語

小島：高3で東大国語を取りました。圧倒的に授業が楽しかったです。先生が明るくて、先生の話す身近なエピソードを聞いているうちに知識がついていく授業でした。

楽しく話を聞いていると、思わぬところで当てられるので、受け身になることもなく、楽しさと緊張感が混ざっていて素晴らしいかったです。

グノではうたい文句どおり、古文漢文は1年間だけで完成させられます。

萩原：僕も東大国語を高3で1年間受講しました。

とにかく東大向けの解答をつくる練習を徹底的に行えて、自分の国語力を伸ばすきっかけになりました。

東大国語の教材の後ろに知識がまとまっているのですが、それを確認



萩原 健介さん (文Ⅲ・芝)

していたら知識面も補強できて読解に活かせました。

現代文でも英語の授業と同じで、先生の体験に照らして具体化した例をたくさん出してくださいました。僕たちにわかりやすいようにという意図だったと思いますし、実際にわかりやすくてためになりました。

本村：高1の夏期講習で古文からグノの国語を受講しました。

それまでは「自分は国語が苦手」という意識がありませんでしたが、初の授業で衝撃を受け、「グノで授業を受けないとダメだ」と思いました。

古文を1年間受講して、文法と知識が身につく、文章が読めるようになりました。

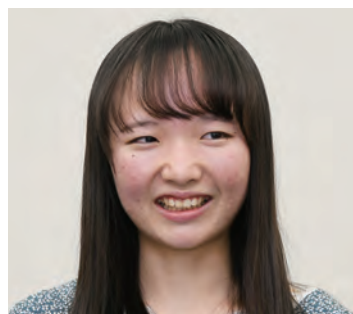
高2の春期講習で現代文を受講して全然点数が取れないことに危機感を抱き、すぐに先生に相談しました。

その時は東大志望ではなかったのですが、先生から具体的な指示がただけてやるべきことが明確になりました。

高3になって東大志望になった時にも、「現代文ができなくてヤバイ」と思っていたのですが、東大国語の授業についていくことで力がちゃんとつきました。

グノの先生は生徒一人ひとりをしっかり見てくださるので、勉強以外の面でも相談に乗ってください、「この先生についていこう」という信頼につながりました。

* 小島 達矢さん。Gno-let vol.23 合格者インタビュー「東京大学文系 Part 1」にご出席いただきました。



本村 日香留さん (文Ⅲ・都立小石川中等教育)

グノの国語ではおふたりの先生に習いましたが、どちらの先生もぶっ飛んでいて(笑)、そのエピソードが強烈なので、「先生の話を聞きたい」と思うだけでも授業が楽しみでした。

解説も丁寧で、添削も「どうしてここができないのか?」という根本的なところまで見てくださって、「あなたはこういう傾向があるから、こう解いたほうがいい」と一人ひとりにアドバイスしてくださいます。

進路のことや忙しい時期の学校と勉強の両立の仕方についても相談に乗っていただき、本当に感謝しています。

グノーブルの先生

本村: グノの先生は私がグノ以外で出会ってきた先生とは全然違いました。

「この人、教える気があるのかな?」と思わざるを得ない先生もいた中で、グノの先生はどの先生も、生徒一人ひとりに親身に向き合ってください、授業はどんな時も真剣そのもので、そんな先生方の姿勢がいつも励みになりました。

「グノの先生についていく」という気持ちをいつも持っていました。

萩原: 先生方が全員、生徒のことをできる限り尊重してくださいます。

親身ですし、授業延長も気にせず、熱を持って取り組んでくださいました。その熱を感じてこちらも「真剣

に取り組まないといけない」と思えました。

今振り返ってみると、高1、高2で遊んでいた時から気持ちが切り替わったのは、グノでの先生方との出会いがあったからというのが大きいと思います。

小島: 先生方の熱意は、授業前からも感じていました。

プリントの整理をしている様子、僕たちから添削対象の答案を回収していく様子も全力です。授業外で質問にいつでも、とことん教えてくださいました。

どの先生からも「全力で教えているんだ」という感じが伝わってきて、こちらも自然に「背筋を伸ばしてちゃんと努力しないといけない」と思えました。

阿部: 高3の授業の場合、先生方は毎日6時間くらい授業をされています。

僕たちは1週間のうち1回受けるだけですが、先生方は授業を週に何回もやっていて、全力ですっと喋っているのに、全員元気なのが単純にすごいと思っていました。

先生方は、何より「教えたい」という熱意を強く持っていらっしゃると思います。

グノーブルの環境

阿部: 学校行事で忙しかったり、文化祭前に行けなかったりした時、受付の方の対応がいつも優しくして親身でした。

小島: 僕は自習室のヘビーユーザーで、新宿校の教室をよく使わせていただきました。グノの場合、個別のブースになっているわけではなくて、他の人が真剣に自習しているのもわかるので集中できました。とても良い環境でした。

本村: 私も自習室のヘビーユーザーでした。家では勉強できない性格な

ので、日曜日を除いて週6日間、夕方6時くらいに学校を出たあと、グノの自習室を利用させてもらいました。

おかげで、自習室を開けてくださる受付の方や見回りに来てくださる警備員の方とも仲良くなりました。帰る時には警備員の方から声をかけていただくこともあり、そういう見守ってくださる環境があったのが心強かったです。

先輩へのアドバイス

萩原: グノの先生の言うことも教える方も間違いはありません。グノを信じてついていけば大丈夫です。そして、こちらも真剣に取り組めば必ず結果がついてきます。

阿部: 萩原君と同じです。グノの先生に言われたことはまずやってみようがいいです。

基礎の英語力はもちろん、大学進学後にも通用する英語力が身につきます。

小島: 授業に全力集中しましょう。英語の授業内演習や数学のテスト演習は、本気になって取り組むと、失敗しても失敗したからこそ授業で「なるほど、こういうことだったのか」と理解を深められます。

グノの授業と演習に全力で取り組んでください。

本村: グノの先生は本当に真剣に熱意を持って生徒に向き合ってください、それをちゃんと受け止めて授業や課題に取り組んでください。

それから、グノの先生方は受験のプロで、親身に相談に乗ってください。どんな相談でも、グノーブルを活用してほしいと思います。

14期生 合格者インタビュー

東京大学

【座談会出席者】(五十音順、本文中敬称略)

Part 1

かつや みれい
勝屋 美怜さん
(理Ⅰ・桜蔭)たんや こうた
丹谷 恒太さん
(理Ⅰ・駒場東邦)なかもら かい
中村 介さん
(理Ⅰ・都立日比谷)みた ち ひろや
三田地 宏哉さん
(理Ⅰ・駒場東邦)

Part 2

さかもと へいそう
坂本 平蔵さん
(理Ⅰ[推薦]・筑波大学附属)ひでしま こうき
秀島 光樹さん
(理Ⅰ・芝)まじま よしき
眞嶋 祐季さん
(理Ⅲ・聖光学院)や の よしちか
矢野 祥睦さん
(理Ⅰ・麻布)わたなべ ゆうき
渡邊 佑貴さん
(理Ⅲ・世田谷学園)

Part 3

おまた ようすけ
小俣 要介さん
(理Ⅲ・海城)
※慶應義塾かわぐち いずみ
川口 泉美さん
(理Ⅱ・女子学院)たなべ もえ
田邊 萌さん
(理Ⅰ・桜蔭)はやし しゅんぺい
林 峻平さん
(理Ⅱ・海城)
※慶應義塾

※東大以外の医学部合格大学

東京大学 理系 Part 1

かつや みれい
勝屋 美怜さん（理Ⅰ・桜蔭）

たんや こうた
丹谷 恒太さん（理Ⅰ・駒場東邦）

なかむら かい
中村 介さん（理Ⅰ・都立日比谷）

みたち ひろや
三田地 宏哉さん（理Ⅰ・駒場東邦）

入塾したのは中2の2学期です。その頃、学校の英語の勉強に不安を感じていました。英文法の仕組みも理解できないまま、ただ教科書を覚えているだけの印象だったんです。グノは未修者の私にわかりやすく、楽しく思えたのが決め手になり入塾しました。

勝屋 美怜さん（理Ⅰ・桜蔭）

東大志望の動機

中村：僕は高校受験をして日比谷高校に進学しましたが、その時、開成と筑駒にも合格しました。それで、「東大に行くしかない」という気持ちが湧きました。

でも、「これで東大に行けなかったら、周りから何か言われそうだ」という不安と、「ここまで勉強してきてこの調子なら、東大に行けるのかな？」という期待を持ちながら、高校で3年間勉強してきました。

丹谷：中3で「東大に入ろう」と決



勝屋 美怜さん（理Ⅰ・桜蔭）

意しました。中1の時、仲の良かった高2の部活の先輩が東大に入って、「身近な人が東大に入れるなら、自分もいけそうだ」と意識し始めました。

高1からは、「東大に入ったら何をしたいか？」「大学で学んでから職業を決めよう」と考え、東大を目指して本格的に勉強しました。

三田地：僕は高校1年の夏まで海外に留学していました。でも、留学中は目的だった英語も含めて全然勉強していなくて、日本に帰ってきてから他の人とのレベルが開いていました。

そこで「追いつこう」と頑張っていたら思いの外伸びて、「これなら東大を目指せそうだ」と思ったのが最初のきっかけです。

また勉強していく中で、自分は周りに影響されやすいことに気づき、「良い環境で勉強できたほうがいい」と感じるようになって、「学力レベルが高い東大で勉強したい」と思ったことも東大志望の理由です。

勝屋：中学生の頃からぼんやり「東大に行きたい」と思っていたんですが、高校で進路を考える時、みんなが東

大志望だったので、「みんなと同じだとつまらない」と思っているいろいろなオープンキャンパスに行きました。そこで興味のある分野を絞ろうと思いましたが、結局、工学系にも生命系にも興味があって絞れませんでした。

「今の時点で進路を狭めるよりも、大学で授業を受けてから考えたい」と思って、進振りのある東大に決めました。高1の夏のことです。

入塾のきっかけ

勝屋：入塾したのは中2の2学期です。

その頃、学校の英語の勉強に不安を感じていました。英文法の仕組みも理解できないまま、ただ教科書を覚えているだけの印象だったんです。グノに通っていた姉が「楽しい」と言っていて、私もグノが気になりました。他塾の夏期講習もとってみましたが、グノの授業のほうが、未修者の私にわかりやすく、楽しく思えたのが決め手になりました。

三田地：新高3のカリキュラムが始まるタイミングで入塾しました。

その時はすでに勉強の習慣がついていましたが、高2までに勉強していたのは数学ばかりで、親や友人からも「英語をやったほうがいい」と言われていました。

仲の良い友人がグノに通っていて、「英語を丁寧に教えてくれる」と言っていたので、それを聞いてグノへの入塾を決めました。

グノは、中1に通っていた塾と全然違って宿題の量が少なく、授業に集中できるので、「これならやっていける」と思いました。

それから、丸暗記させられたり、文章が退屈だったり、勉強が作業のようになってしまつてつまらないということがグノには全くありませんでした。

「これからここで頑張ってみよう」と純粋に思えました。

丹谷：中3の春からです。

周りに帰国子女が何人もいる環境で、中1から英語の勉強を始めた僕は、彼らに負けずに頑張っていたので、中2までの定期試験の英語は毎回100点近く取れていました。

ところが、実力試験で初見の英文が出されると、一気に学年順位が下がりました。初見の長文が全然読めていなかったんです。

英語をちゃんと読めるようになれる塾を探すことにして気づいたのがグノブルです。学校で英語ができる人の多くがグノに通っていて、それが入塾のきっかけです。

中村：僕は高校生になってから数学で他塾に通っていましたが、受験勉強というガチガチした感じが好きになれませんでした。

そんな頃、グノブルのことが気になり始めました。高校受験の時に使っていた『高校への数学』*1の裏表紙に広告が載っていたのを思い出したのです。グノブルから東大に合格した人たちが「英語が面白い」「数学も面白い」と書いていて、それ

で、高1の夏に英語と数学の講習をとりました。

「ここが合っている！」と直感的に思えて入塾を決めました。

グノブルの話題

中村：グノと一緒に数学で通っていて、高校受験の塾も同じだった友人と、よくグノの話をしていました。

大学受験の大手予備校は、先生が教壇に立って一方的に教えるスタイルで、生徒はノートをとりながら授業を受けます。一方、グノは、先生とのやりとりで授業が進んでいきます。「そこがいいよね」とふたりで言っていました。

丹谷：僕の学校にはグノブル生がたくさんいて、高2の時は、担当の先生が英単語の語源の解説ですごく身振り手振りをするので、それをみんなでまねしていました。

誰が一番うまくまねしているかを競ったり、「あの単語の動きをやって」というと全員ができたり、英英辞典の単語の説明だけ読んで単語を当てたりしていました。

GSL*2の最初の一文をスマホで流してその文章を当てるという「イントロクイズ」というのもありました。当てた人はどんどん続きを言っていきます。みんなで自主的に遊び感覚でグノを楽しんでいました。

三田地：グノでは、文理の壁を越えて全員で同じ勉強をしています。だから、僕は文系の人とも仲良くなれました。

学校では文系と理系でクラスが別で一緒に勉強する機会はありませんでしたが、グノで文系の人とも話せるので、文系の友達と話題を共有できました。例えば、高3なら「要約は何点だった？」とか「ここが難しかったよね」と盛り上がりました。

勝屋：他塾に通う同級生の中には学校で盛り上がっている人もいましたが、私はそういうのが好きではな



丹谷 恒太さん（理Ⅰ・駒場東邦）

かったので、数人でこぢんまりとその週の先生の面白かったところとか、グノで扱った英文のことなどを語り合っていました。

グノブルの英語

勝屋：特徴はいくつかあります。

まず、全員が当ててもらえて、先生とやりとりしながら授業が進むところです。授業に参加してる感があるし、先生もこちらの表情を見てくださり、消化不良の顔をするとさらに解説してただけで、一方的でないのが本当に良かったです。

みんな当たるから、自分も間違えるけれど他の人も間違えます。だから、緊張感はありませんが、間違えることを気にしないでいいんです。

それから、英語を英語のままどんどん読めるのが楽しかったです。いつも「前から読むように」と言われて、日本語に訳して読むのではなく、意味のまとまりで読めるようになりました。

三田地：一番大きいのはストレスフリーで楽しめることです。

まず、授業が面白いし、文章が興味深いし、先生の話もためになります。

次に、音読の勉強法も全然ストレスを感じないものでした。

音読が習慣化してくると、音読をしているだけでとても効率よく復習

*1 『高校への数学』は東京出版が発行している中学生向けの月刊誌。

*2 GSL (Gnoble Sound Laboratory)：中1から高3までの6学年すべてに毎週用意されているオリジナルの英語音声教材。

ができるようになりました。市販の単語帳の暗記や、問題集の解説を自分で見ながら調べるといった勉強はストレスがたまりますが、グノの復習にはそれがありません。

それから、毎回授業の最初に行われる英文要約はレベルが高くて、でも、難しいからこそ、良い点数が取れた時に尋常ではなくうれしかったです。要約の点数を目標にできたのも楽しくできた点だと思います。

丹谷：大きくふたつあります。

ひとつは単語を語源から解説してもらえる点です。

市販の単語帳を覚えるのが勉強だと思っていた頃は、似ている形の単語、グノ流に言えば「同じ顔をしている単語」も別々に覚えていました。

でも、グノの解説を一回聞くと「この部分がこうなっていて、接頭辞が違っただけだからこの意味が違なんだ」とわかって、単語を覚えるのも、未知の単語の意味を推測するのも楽になりました。

もうひとつは、長文を入試のための問題演習で終わらせるのではなく、深く解説してくれる点です。「そういう考え方もできるんだ」とか「こういう理論や学問もあるんだ」とか、英語にとどまらない教養になって、自分の視野を広げてもらえたのが大きかったです。

中村：もともと英語が一番得意な科



中村 介さん (理Ⅰ・都立日比谷)

目で、音読も好きでした。

そんな僕にとって、グノの英文はいろんな分野を扱っているから、新鮮で飽きませんでした。グノは音読を重視していますが、本当に音読しているだけで復習になります。

目的意識を持って学習するのもいいでしょうが、グノで英語を勉強しているのなら、グノの勉強をただ楽しんで、英文も面白いから音読しているだけで、技量的にも上がっていくし、英単語も勝手に増えていきます。

興味の持てる文章を提供されて、納得しながら音読していくことが、結果的に受験勉強になっていました。

英語は、大変だった数学や理科と違って、「受験勉強した」という意識は全くありません。それでも結果的にはうまくいって、上位に食い込める実力もついて、「音読が語学学習の基礎だ」と改めて思い知りました。

意識せずに力がつくシステムは、グノの強調されるべき長所です。

三田地：僕は高3の夏まで、英文を声に出しながらスラッシュと読むことはできても、英文が何を言っているかがわからないという状態でした。そこで、文章を途中で区切って日本語に訳しながら、自分で授業をするような形式で復習しました。そうしたら、夏休み頃の音読では、日本語を介さなくても読めるようになっていて、音読だけで復習できるくらいの力がついていました。僕にとって日本語を介さない音読はハードルが高かったので、少しだけハードルを下げて授業の内容を理解することで克服しました。授業できちんとわかっていないのに音読しても意味がありません。

丹谷：音読をやっていなかった時期と、やっていた時期で全然違いました。

音読していないと、文章の内容をちょっと理解しただけで終わります。深いところまで入れません。



三田地 宏哉さん (理Ⅰ・駒場東邦)

音読を始めると、耳で聞いたり自分の口で音を発したりと、目以外のところを使うので、それだけ負荷がかかります。意識しなくてはならないところが多いので、意味まで考えて誰かに伝えるつもりで音読するのは最初は大変でした。

しかし、GSLを使いながらプレゼンするように音読するのになれていくと、どこを強調するかを勝手に意識し出して、それが授業で聞いた解説と結びつくことで「ここが理由で、ここが説明だな」と理解できるようになります。黙読していると、文章の表面的なことは読めても文章全体で言いたいことがつかめません。

僕は、風呂の中で文章をプレゼンするように音読していました。先輩からは、「電車の中で音声を聞きながら口パクをするといい」と教わって、実際に効果がありました。

それから、リスニングの強化にもつながって総合的な英語力が伸びていきました。

勝屋：私の場合、高3の時の先生が熱く語ってくださった言葉が胸に響いてやっとな、それまでなかなか継続できなかった音読を習慣にすることができました。

音読していたのは要約で扱った英文でしたが、続けてみると、文章がどう組み立てられているかを意識できるようになる上、筆者の言いたい

ことを的確に把握できるようにもなり、音読はとても効果的でした。

中村：グノでは「単語帳を使わなくていい」と言われます。ただ、学校みんなは単語帳を覚えているので、それを見て「自分もやったほうがいいのかな？」と思って単語帳をやり始めたことがあります。

でも、すぐに「単語帳は要らない」と確信するようになりました。音読をやっていたらその効果は一石二鳥どころではありません。

そもそも単語帳で単語を見ていてもカタログを見るみたいになってしまいます。無理に単語に興味を持とうと思っても、ただ並んでいる英単語が面白く見えてくるわけがありません。

結局三日も続かず「単語帳は自分に向いていない」と感じました。それに、グノで扱う英文を使って音読を続けていけば、単語帳を使っている人よりたくさんの単語を知っているし、深く理解できているとも思っていました。

グノで語源やイメージを教わっていれば、英文を読む時にも単語がわからなくて困ることはありません。**三田地**：単語帳をやらなくても不安に思ったことはありません。その理由としては、結果が出ていたからというのが一番大きかったです。

グノに入る前に「単語帳をやらなければならない」と思って買いましたが、もともと向いていないのがわかっていて、「やる」と決めても続きませんでした。

その状態でグノに入って「単語帳をやらなくていい」と言われた途端、グノを信じる・信じないではなく、単純に「ラッキー」と思いました。そして、何も考えずにそのまま単語帳をやりませんでした。問題は全然ありませんでした。グノの授業を真面目に受けていけば、単語帳は要りません。

勝屋：私も「単語帳をやらなくていい」と言われて、「良かった」という

感じでした (笑)。

グノでは、授業中にも、単語テストみたいに単語と対応する日本語の意味を直接書くシーンはありません。いつも強調されていたのは、どの英単語にも表情やイメージがあるから、語源を大切に単語の顔つきと“おなじみ”になること、そして英文の音読を通して、単語と段々仲良くなっていくということでした。

丹谷：僕の場合、高1までは学校で配られた単語帳があったので、それをかなりやっていました。

そのあとの流れは違って、学校の他の人たちは分厚い単語帳に移っていきました。

僕はグノの授業で扱う英文を使って、語源を覚えてもらいながら単語のイメージを膨らませていきましたが、それはグノのやり方にアドバンテージがあると確信していたからです。

例えば、たくさんの意味を持つ多義語は、単語帳をやっても覚えるのは大変です。でもグノでは単語のイメージを覚えてくれるので、すべての意味が自然につながります。

英語の力が伸びた時期

中村：要約はグノの授業の特長のひとつです。高校生になると毎回の授業の最初に演習を行い、すぐに添削してもらえて解説も受けられます。

高2の授業でも要約の時間があり、それなりにできていました。でも、高3の授業で渡される文章は難解で、「要約は要点をつかめばできるものだ」というそれまでの思い込みを打ち砕かれました。

生半可な気持ちで読むと要約できない文章が何回かあって、「流れでやっついてはダメだ」とわかりました。特に高3初回の授業は要約の点数がボロボロでショックでした。

書いている時は「10点中8点く

らいかな？」と思っても、返ってくると4点で、黒板に書かれたクラスみんなの点数分布を見てさらに悲しくなりました。

でも、解説の時は、悲しい気持ちを抑えて、吸収することに必死で、「そういうことか」という気づきを大切にしました。そして授業後の音読を使った復習も頑張りました。

それを繰り返していくと意味を読み取る訓練がしっかりできていって、模試や本番の要約問題は全く苦ではありませんでした。本番は「良かった」と思える手応えでした。

三田地：僕の場合、高3の10月に「要約を伸ばそう」と思って、4週連続で毎日真面目に1時間くらいかけて復習しました。

解き直しでは、文章を正確に読むこと、筆者の主張とそのサポート部分を分けることを軸にして、「ここは書いて、ここは書かない」となるべく的確な判断力を身につけようとしてしました。

先生の模範解答と見比べて、それでも納得できなければ先生に質問して、自分の視点のずれを直して、理解を深めていき、それでやっとな点数がついてくるようになりました。

「要約は真面目に取り組まなければダメだ」と思っています。

勝屋：私も、中3と高1で文法をふた回りし終わっていたので、自分では割と英語ができるのでは、と思っていました。でもやはり、要約が本格的に始まってみると全然ダメなこ



勝屋 美怜さん (理Ⅰ・桜蔭)

とに気づきました。

他の英語の設問だと気づけない課題に、要約をやろうとすると気づけるのだと思います。

筆者の言いたいことを的確につかみながら文章を読むこと、つかんだことをうまく自分の言葉で表現するということは、簡単にはできないようにならないと思います。グノでそういう練習を、1年以上かけて続けられたのは、本当に良かったです。東大を受ける上で要約の練習は絶対に必要です。

丹谷：グノの英文はジャンルが幅広く、哲学的なものや宗教的なものであって、そういう時は内容が難解でした。

でも、先生が背景や著者の経歴を解説してくださるので、深く味わうことができ、こちらの理解の幅が段々広がっていくのを実感していました。

問題を解いている時、和訳できても何を言っているのかわからない英文もよくあります。先生に当てられて、「和訳できたぞ」と思って答えたあと、「それ、どういうこと？」と聞かれて固まった経験が何回もありました。表面的な理解と奥の理解は全く別のことなんです。

そういう経験のおかげで、和訳するだけでなく、「要はこの英文は何を言いたいんだろう？」といつも考えられるようになりました。

これが英文を深く理解できるコツで、本番で問題を解いている時も、「これはグノで言っていたあの考え方と関連した考え方だ」「これと似た背景があった」などと思っています。

グノーブルの数学

中村：僕にとってグノの数学はカルチャーショックでした。

「今まで自分は何て数学に適当に取り組んできたんだ。これからは先



丹谷 恒太さん (理Ⅰ・駒場東邦)

生の言うことをすべて吸収して取り入れよう」と真剣に思いました。

きっかけになった言葉は、先生が何度もおっしゃっていたのですが、「思考体系を確立しなさい」「適当にやる見切り発車は厳禁で、すべての行動には目的が伴う」というものです。

印象的なフレーズでした。

今まで「いかに適当に数学をやっていたか」を実感させられましたし、毎回なかなか実践することができなくて悔しい思いもしていました。

グノでは毎週予習問題を解いてきて、その答案と解いたプロセスの両方を先生に見ていただけるのですが、解き方にエラーがあると指摘されて、ぐうの音も出ませんでした（笑）。

もともと数学は得意で自信がありました。だからこそ、根本的なエラーを指摘されると、「実はできていなかった」と心がへし折られて、「初心に戻って頑張りますので、1年間お願いします」という気持ちになりました。精神的にはつらかったけれど本当に鍛えられました。

何よりセルフチェックシートの役割は大きかったです。

僕は、思ったことを何でも書いてしまえるタイプだったので、最初から埋めることができました。

テスト演習が終わったあと、家に帰ってすぐに自分のミスや悔しかったところを書いていると、感情があふれ出てきました。おかげで、「どこでどんなミスをして、どんな点数

だったか」を今でも覚えているくらい印象に残りました。

グノーブルの先生

勝屋：中2から高3まで、多くの先生に担当していただきましたが、それぞれ個性の強い先生で、私はどの先生も大好きでした。

どの先生も、授業にとっても熱意をお持ちでしたし、英語にとどまらない知識を持っていらっしゃるのので解説が楽しいんです。英語の知識ももちろん豊富で、質問にいった時にもすっきり解決してくださいます。

言葉にしづらい部分は曖昧な理解になりがちですが、それを明確にして、スッキリさせてくれたグノはさすがです。

三田地：世間の英語の授業では適当な先生も多いと思います。実際、僕も「感覚でやれ」などと言われたこともあります。

一方、グノではそんなことは一切なくて、理解がお腹の底にストンと落ちました。ストンと落ちない時には質問するとちゃんと明快に説明してくださいました。

先生は、授業がすごいし、英語にとどまらない知識もあって、こんな大人になりたいという目標になりました。

だからグノでは英語を勉強しているけれど、受験勉強をしているという感じではありませんでした。

丹谷：確かに先生方はいろんな知識をお持ちです。

最初は、先生方に対して「英語の先生だから文系寄りかな？」と思っていました。でも、理系の文章の解説で、理科系のことが好きな僕も知らないことを先生がおっしゃっていて、僕は心から尊敬の念を抱いていました。

理詰めばかりではなく、先生方は体も使うし、熱量もあるので、英単語のイメージや動きなどの知識も記憶に残りやすく、まねもしやすかつ

たし、本当に楽しく授業を受けられました。

友達と駅に向かいながら、「先生の単語のあの動きがすごく必死だね」という話になって、その動きをどこまで上手にまねできるかをずっとやっていました。

中村：先生が生き生きとしていたのは本当にそのとおりです。

英語の添削では毎回どんなコメントを書いていたのか楽しみで、そのコメントを励みにもしていました。

数学の先生も、セルフチェックシートに本当に丁寧にコメントしてくださいました。コメントの時はすごく優しい言葉もいただけるんです（笑）。

僕は毎回、割と大きめの紙に字だらけになるほど書きましたが、それにも返信をくださって、しかも的確でした。

答案を見ていただく時も、僕の解き方をすべて把握してくださっていたので、「こういう意図で解いたんです」と書かなくても理解してもらえました。

その上で「中村君ならこういう解き方のほうがいいんじゃない」と個人を尊重して教えてくださるので心から信頼できました。

先生のことではありませんが、グノは受付の雰囲気もすごく良かったです。

他塾の受付は雰囲気が良くないところもあって、なるべく行きたくな



中村 介さん (理Ⅰ・都立日比谷)

いと思っていました。

それに対して、グノの受付はオープンで抵抗感がなく、用事がなくても行きたくになります。受付の雰囲気の良さが、塾全体の雰囲気の良さにつながっていました。

後輩へのアドバイス

勝屋：グノの英語は東大クラスに分かれているわけではありませんが、授業を受けていると、東大対策になっていることがよくわかります。東大に進学後にも役立つレベルまで先生方は考えて教材を用意して授業をしてくださっています。

だから、東大を目指す後輩の皆さんは、いろいろ手を出すよりもグノの復習だけを頑張ってください。

三田地：同じ意見です。

勉強では、頑張れば報われるとは限りません。むしろ頑張っても報われないことは多い気がします。「こんなにやったのに成績が伸びない」ということばかりです。

ただ僕の場合、グノの英語ではそれが全くありませんでした。文章は面白いし、英語力を伸ばす理論も教材も揃っているし、振替ができることも含めて勉強する最善の環境が整っていたと思います。何より、いい先生がいます。

あとは、グノを信じて、自分がやるだけです。

丹谷：振替システムがあるので、塾に縛られない高校生活が送れます。高1・高2は、文化祭や部活があって、学校が一番楽しい時期です。勉強以外の自分のやりたいことに全力で臨めば、勉強への切り替えもスムーズです。自分のやりたいことをグノと両立してやり尽くしてください。

それから、グノで一番大切なのは復習です。授業に全力で臨むのは当然ですが、授業内に全部吸収することはできません。



三田地 宏哉さん (理Ⅰ・駒場東邦)

グノの英語は復習していても面白いし、復習の時に、先生の解説を思い出しながら、文章を振り返っていると「こういうことだったんだ」と気づくこともよくありました。

復習を何回もして、音読も何回もして、グノの先生の言ったことを自分の体に染み込ませるのが、英語の力を伸ばすコツです。

中村：受験が終わった今だからこそ、「グノの先生の言っていたことに、真面目に、手を抜かずに取り組むことは大切だ！」と思います。

そんな僕が伝えたいのは、プロフェッショナルである先生方を信用して、先生が指導してくださったことを真摯に受け止め、ストイックに頑張ってほしいということです。

一般的な話になりますが、受験もののをいうのはメンタルです。僕の場合は、本当にどこに根拠があるのかわからない自信というか、ポジティブさに助けられました。

自分に自信を持ちながら、グノの先生と一緒に前向きにやっていけばきっと結果が出ます。

東京大学 理系 Part 2

坂本 平蔵さん（理Ⅰ[推薦]・筑波大学附属）

秀島 光樹さん（理Ⅰ・芝）

眞嶋 祐季さん（理Ⅲ・聖光学院）

矢野 祥睦さん（理Ⅰ・麻布）

渡邊 侑貴さん（理Ⅲ・世田谷学園）

グノの授業では、毎回添削してもらえます。それから、先生が生徒全員の名前はもちろん、一人ひとりをしっかり把握してくださるという大きな特長があります。グノの英語は、参加型の授業です。受け身ではなく、積極的に先生と関わっていきたいという人にはぴったりだと思います。

秀島 光樹さん（理Ⅰ・芝）

東大志望の動機

眞嶋：僕は、中学2年生の頃に医師を目指すことにしました。医師という職業は、肉体的にも精神的にも傷ついた人を再び健康な状態に戻して社会に送り出すことのできる唯一の職業で、非常に素晴らしいと思ったからです。

中学3年の夏休みには、横浜の病院を見学する機会をいだけて、そこでお会いしたお医者さんといういろいろお話ししました。その先生は患者さんに優しく、僕にも温かく接してくださいました。このことが印象に残り、「患者さんの心に寄り添って精神的に支えられる医師になれたらいいな」と思いました。

最初は漠然と「医師を目指そう」というところから入ったので、東大理Ⅲ志望ではありませんでした。でも、高1の時、東大以外の進路希望を提出したら、学校の先生から「君の実力なら、もっと上を目指してもいいのではないか？」と言われて、志望校を再考しました。

僕の家が東大の本郷キャンパスに近く、東大に行く機会が多かったこ

ともあって、東大への憧れはありました。東大は歴史のある大学で、有名な人もたくさん輩出しています。そのブランドとクオリティーに心惹かれて、東大を目指すことにしました。

渡邊：僕はかなり前から、「世のために何かしら役立つことをして生きていきたい」と思っていました。だから、人の命を救える医療に携わる職業として医師を目指すことにしました。

研究か臨床か、将来のことはまだはっきりしていませんが、「研究者を目指す人のためのルートも用意されている大学に身を置きたい」と思いました。そのため、最先端の研究に触れながら医学を学べる東大を志望しました。

秀島：高校2年生の夏に志望校を決めました。

小さい頃から、理系の父の影響でプラネタリウムに月1で通ったり、「機動戦士ガンダム」が好きだったりして、宇宙に興味を持っていました。

中学から高校まで「宇宙のことが一番好きだ」というのがアイデン



坂本 平蔵さん（理Ⅰ[推薦]・筑波大学附属）

ティティで、高2で志望校を調べた時「東大の航空宇宙工学専攻を目指したい」と思いました。

坂本：僕は数学が好きで、数学オリンピックにも出ていました*。東大数学科に在籍している数学オリンピックの先輩たちを見ていて、「こういう人たちがいる東大は、刺激的で、勉強しやすい環境だ」と思って東大数学科を志望しました。

僕が中3の時に兄も東大に進学したので、兄に対する憧れもありました。

矢野：僕は皆さんと違ってはっきり

とした理由はありません。高2の時、志望校を決めなければならなくなって、周りの同級生や部活の先輩が東大を目指していたのにつられて、自分も東大志望にしました。

チェス部に所属していましたが、サークルに入ってチェスが続けられて、親に授業料の負担をかけないことを考えると、東大が一番魅力的だということもありました。

学部をまだ決められないので、教養学部で2年間学んだあと、進振りで決めるつもりです。

入塾のきっかけ

眞嶋：グノに入ったのは高3の春です。当時、英語が一番の得意教科でしたが、英語で全教科を引っ張れるほどではなく、その現状を打破したい思いがありました。

それで、両親が、英語に強い塾ということで「グノーブルにしないか？」と勧めてくれたのがきっかけです。

渡邊：僕の親もグノーブルを「英語に強い塾」として勧めてくれました。僕の場合、入塾のきっかけは、中2の冬に「学校以外に行く場所をつくろう」と思ったことです。宿題も多すぎず無理なくやっていけそうだったので英語と数学の受講を決めました。

坂本：高1の春に入塾しました。

僕は好きなことしか熱中できない性格で、中3の頃は単語を覚えるだけの英語に面白みを感じられず、「このままだと英語を勉強しなくなる」と危機感を抱きました。まずは英語を好きになるきっかけが欲しくて、英語を楽しめる塾を探しました。

この時、それまで様々な塾に通っていた兄がグノに落ち着いたこともあって、「グノが一番楽しいのだろう」と思い、グノへの入塾を決めました。

秀島：高1の冬までは部活に打ち込

んでいて部長も務めていたのですが、この塾にも入っていませんでした。でもその頃、「そろそろ受験勉強を本格的に始めよう」と思っていました。

僕の学校は高2から、成績で国立型と私立型に分かれます。国立型は倍率が高く、成績がある程度ないと入れないのです。

姉の友人や英語のできる友達がすでにグノに通塾していて、「いい塾だよ」という情報を得ていたので、「英語ならグノだ」と考えて冬休みに入塾しました。

その後、僕の周りでもどんどんグノに入塾していきました。

矢野：高2の夏で部活を引退したあと「勉強しないといけない」と思い、一番の苦手科目だった英語に本腰をいれようと塾を探しました。英語のできる周りの人から自分で話を聞いてグノに決めました。

グノーブルの英語

渡邊：「市販の単語帳は要らない」というのが一番のグノらしさです。

先生が英文の解説中に語源に着目しながら単語の解説をしてくださいます。それはただ聞いていても興味深いし、時々先生がその単語の動作を体を使って表現したり、黒板に単語のイメージを描いたりしてくれ

ます。そういうグノの授業を楽しんでいれば、無理に暗記しようとするのではなく、自然と単語が頭に入ってきます。

そういうグノの授業を楽しんでいれば、無理に暗記しようとするのではなく、自然と単語が頭に入ってきます。

坂本：グノの説明会で「単語帳の暗記はしない」と言われた時、信じられませんでした。でも、授業を受けてみたら、授業中に扱う英文の単語を面白く説明してもらえて、それで



秀島 光樹さん（理Ⅰ・芝）

覚えられたので、3年間で単語帳を一回もやらずにすみました。単語に関する面白くて印象に残る説明がこの塾ならではのと思います。

高3の授業で毎回行う要約も特徴的です。

最初はどうかとめればいいのか全然わかりませんでした。パラグラフが分けられていることの意味もわかっていなかったのも、何となく英文が読めているだけで、筆者が言いたいこととか、それがどのように組み立てられているのかも見抜けてい

ませんでした。でも、先生の説明を聞くことで、段々と読み方がわかるようになって、筆者の言いたいことが読み解けて、全体の構造がすっきりつかめるようになると大きな達成感が味わえました。読み解けなかったら悔しくて、こういう気持ち味わえる授業自体、英語では珍しいことだと思います。

グノでの経験を通して、それまでは「英文の内容が表面的にわかればいい」と思っていたのが根本的に変わって、英語に興味を持てるようになりました。

矢野：毎週新しい英文がたくさん用意されるのが本当に良かったです。入塾した当初は、英語が嫌いで、読んでも全然わかりませんでした。

でも、毎週、時事的な話題も含めて、様々なジャンルの英文が用意さ

*第60回 国際数学オリンピック（IMO2019 イギリス大会）で坂本さんは金メダルを獲得されました。

れるので、そこに惹かれて読んでいくうちに、教養まで身につけられることが面白くなり、英語を読むことへの抵抗感が薄れていきました。

秀島：グノの授業では、毎回添削してもらえます。それから、先生が生徒全員の名前はもちろん、一人ひとりをしっかり把握してくださるという大きな特長があります。

先生が自分のことをわかってくれていて、毎回自分の答案を見てくれる、となると「自分の成長を先生に見せたい」という強い思いが芽生えます。僕はその思いの連続で頑張りました。

授業中に先生から指名されるのも僕にとってはやる気につながっていました。もちろん指名されれば緊張しますが、指名されても大丈夫なように前もって準備することが大事だと思っていました。「これはわかる！」と思ったら先生のほうを見て「当ててくれ！」という表情を送ることすらしていました（笑）。

グノの英語は、参加型の授業です。受け身ではなく、積極的に先生と関わっていきたいという人にはぴったりだと思います。

眞嶋：何よりも授業が楽しいのが特徴です。延長もガッツリあって授業時間は長くなりがちですが、授業が終わって帰る時、全然疲れを感じませんでした。それは楽しかったから

です。他塾の授業を同じ時間受けたら疲れていたと思います。

参加型の授業でしたし、扱う英文の題材も様々でした。時事的な話題から論説、エッセイ風の読み物、たまに小説もあって面白かったです。

先生は「単語がどういう顔をしているか？」とおっしゃって、語源や接頭辞・接尾辞の説明もしてくださいます。そこから「この単語がここにこうつながってる」とか「ネイティブの人はこういうふうを考えてこの動詞とこの動詞を似ていると考えるんだ」とか、新しい発見がたくさんありました。

難しい哲学的な英文を扱う場合も、英語を話している人たちの考え方が伝わってきて、「そういう考え方をしているんだ」と感じ取ることができました。同時に、「僕もこういうふうを考えるようにすれば、英語がスラッと正しく使えて、その場に即した表現が出てくるんだ」と気づかされました。

秀島：受験勉強として英語を勉強するのではなく、人生の途中の通過点として英語力を上げるというのがグノの授業の印象でした。

英文を前から読む力や英語の話者の雰囲気や考え方を育める授業です。**渡邊**：そのとおりだと思います。英文を変に曲げて解釈するのではなく、前から流れを追っていくという形で捉えられるようになります。

グノがまず重視しているのは、テストの時のいい答案づくりではなくて、英語がそのまま解釈できるから結果としていい答案になる、英語らしい発想ができるから英作文も自然に書けるということです。

大学受験だけでなく、英語を将来的に応用していく中でも土台になる授業でした。

坂本：英語を読む時に、一回一回日本語に訳すのではなく、英語を英語のまま捉えていくのに慣れてきて、読むスピードが格段に速くなりました。



矢野 祥睦さん（理Ⅰ・麻布）

た。英語のまま理解できて、内容が頭に入ってくるようになったのは本当に大きかったです。

矢野：グノが大事にしている音読も、英文を後ろから読み返さず、自然に前から読んで意味を捉えられるようになるための訓練です。小手先のテクニックに頼らない英文の読み方が身につきました。

眞嶋：以前は音読をあまりやっていませんでした。親にも「音読をやったほうがいい」と言われ、グノの先生からも同じことを言われていましたが、何回かやっては面倒くさくなって「今日はもういいや」ということが続いていました。

受験が近づいてきてからです、「真面目に音読をしよう」と思い始めたのは。毎日欠かさず音読をする効果はやっぱりあって、毎週の要約の点数にまず表れました。

そのうちに読むスピードが上がりました。以前は東大模試でいつも時間ギリギリだったのに、余裕を持てるようになって、入試本番でも5分くらい見直しの時間ができました。

音読を真面目にやっていたなかった時期は、英文をバートと読むと、whichなどの読み返しのサインが出てくるたびに「これはどの単語にかかっているんだろう？」と考えて、同じ行を何回も行ったり来たりしました。



渡邊 侑貴さん（理Ⅲ・世田谷学園）

そんなことをやっていると、英文の内容がサッと頭に入ってこなくて、頭の歯車が空回りしてかみ合っていない感じでした。

音読を真面目にやるようになってからはそういうことがなくなって、脳内で日本語を経由せずに内容がそのまま入ってくる感覚になりました。

坂本：僕の場合は、お風呂で毎日音読していました。音読では、英文を理解できていないところはつかえて読めなくなります。「ここがわかっていなかったんだ」と自分で気づけるという点だけでも、黙読との違いは明らかです。

矢野：音読の良いところは、英文さえあれば他に何も要らない点です。

リビングでただだらしている時でもできる（笑）。毎日のスキマ時間にちょっとずつ取り組みます。こうした音読の積み重ねは効果がありました。

最初の頃だけです。親に聞こえるので恥ずかしいと思ったのは。慣れてくればそんなことはすぐに気にならなくなります。

秀島：新高3になるタイミングの学習オリエンテーションでも、授業の時にも、先生が「音読が大事だ」と強調していたので、それでやってみる気になりました。

電車内で、GSL*を聞きながら口パクしました。それは1年間を通し

て継続しました。

夜は週1くらいのペースで家族の前でプレゼンしていました。先生は「ぬいぐるみに話しかけるといい」とおっしゃっていましたが、家にぬいぐるみがなかったのが（笑）、家族に協力してもらったんです。

音読の習慣が定着すると、いつの間にかそれがリスニングの強化にもなっていることに気づきましたし、英語のリズムや言い回しが定着して英作文にも強くなりました。英文を目で追っているだけでは得ることができない効果だったと思います。

渡邊：僕も音読を習慣化できたのは高3でした。

音読がうまくなると、全体の流れがきれいに見えてくるばかりではなくて、一語一語も際立ってきます。どうしてこの前置詞なのか、ということにも敏感になるんです。

それどころか、複数形や三単現のs、冠詞のaのような細かなことまで着目できて、落とさずに読めるようになります。

英語の力が伸びた時期

坂本：中3の頃までは英語の勉強は好きではありませんでしたが、高1でグノに入ってすぐに英語嫌いが解消できて、グノに通うのが楽しみになりました。

でも、成績として結果が出始めたのは高3からです。高1、高2はクラスに友達もいなくて、交流もしていませんでした。高3のクラスでは友達と一緒に張り合えるようになって、よくグノの授業で扱った英文のことを話しながら成長できているのを実感していました。

矢野：グノの中では、クラス分けテストでもクラスが上がりませんでした。でも、段々と読めるようになっていたとは思っていました。実際、高3の秋や冬の模試で目に見え

て結果が出てきました。

秀島：英語の伸びを目に見えて感じたのは、高2の冬にセンター試験の同日模試を受けた時です。前年からはるかに点数が伸びていて190点でした。

このあたりから、英語を英語のまま読めるようになり、模試の点数も安定してハイレベルを保てるようになりました。

グノで英語を続けたおかげで「英語は大丈夫」と確信でき、東大本番の英語も比較的余裕を持ってクリアすることができました。

眞嶋：読むスピードが上がったことは受験本番の試験場で実感していました。

僕は過去問を1、2年分しか解かず、しかも真面目に取り組んだわけではありません。でも、本番ではどこの大学の入試でも、英語が良い方向に引っ張ってくれました。

英語を読むスピードが上がっていて、見直しの時間ができたからです。音読を真面目にやり始めて習慣化したのは高3の2学期で、9月や10月くらいからです。すぐには効果は出ませんでした。受験本番には間に合いました。

東大の自由英作文は、お題があって70～80字で書く形式ですが、グノの宿題の添削でそういう英作文に何度も取り組んでいたのが良かったです。

初めはお題によって、自分なりの考えがパッと浮かんでスラスラ書け



坂本 平蔵さん（理Ⅰ[推薦]・筑波大学附属）



眞嶋 祐季さん（理Ⅲ・聖光学院）

* GSL（Gnoble Sound Laboratory）：中1から高3までの6学年すべてに毎週用意されているオリジナルの英語音声教材。



秀島 光樹さん（理Ⅰ・芝）

ることもあれば、「何を書けばいいんだろう？」となって何十分もかけていたこともありました。

でも、何度も何度も添削のやりとりをしていくうちに、引き出しが増えてきたのか、書き慣れて、本番も割とすぐに自分の書きたいことを書けました。

渡邊：読解のほうは、回を追うごとにジワジワと良い読み方が身についてきたと思います。一方、英作文は高3で急に書けるようになりました。

グノーブルの数学・国語

渡邊：グノでは数学も国語もお世話になりました。

中2の冬から受講したことで、数学の土台と姿勢が整いました。特に高1までの授業は、演習して、解き終わったらどんどん先生に見てもらえる形式で、夢中になって解いているうちに、自然と計算力が身につき、単元の内容も頭に入ってきて定着しました。

楽しかったし、高1でかなり伸びました。自分の中で数学への向き合い方がはっきり確立されて、「よし、やってやる」という勢いが増しました。

国語は高1から高3まで本格的に受講しました。高1で古文、高2で現代文、高3で東大国語の古文と現代文です。

一見、なじみにくい古文や難解な現代文、理解しにくい古文単語を、

担当の先生は身近な例をたくみに使って説明していただきました。面白さに引き込まれているうちに国語への親しみが増し、国語に対する抵抗もいつの間にか消えていました。

グノーブルの物理

矢野：グノの物理は僕の中では大ヒットでした。

グノの英語は他塾や学校と比べても独自の指導ですが、物理も引けを取らず独自性がありました。

高3の夏までは物理の歴史を学びながら物理を紐解く授業です。当時の物理学者の思考の道筋をたどっていくわけですから、わくわくできますし、それに伴って理解もどんどん深まります。

物理の身近なものへの応用例にも話は踏み込みます。例えば振り子の単元では、「振り子の等時性は時計を作る上でこう使われている」というように展開していきます。公式をただ覚えるよりも記憶に定着しやすく、習った単元はいつまでも記憶に残ります。受験勉強をしている感じがしない授業が大好きでした。

グノーブルの先生

坂本：先生方は全員、すぐに生徒の名前を覚えてくださって、一人ひとりの立場に立って毎回授業を進めてくださいます。授業での指名も、一回も当たらないという日はありません。

他塾だと先生1人対生徒全員ですが、グノーブルの先生は一人ひとりを個人として考えてくださいます。そのおかげで「サボってもいいや」という気持ちに全くならなくて、いつも「今日もやるぞ」と意欲が持てました。

渡邊：そのとおりなんです。最初の授業から名前を覚えてもらえて、本当に一人一人のことを先生が見てく

だしますから、こっちが授業に臨む気持ちもいつの間にか真剣になります。

見てくださるのは学習状況だけではなくて、僕のパーソナリティも踏まえて深く相談に乗ってもらえました。とてもありがたかったです。

矢野：少人数制だからこそ、授業中に先生方の生徒一人ひとりへの視線が伝わってきました。

実際、授業中に時々先生と目が合います（笑）。よく見てくださっているのがわかりました。

眞嶋：僕は高3になって初回の授業の時に和訳に課題を抱えていると先生に相談しました。先生のほうから「授業で扱った和訳の問題をもう一度家で答案として仕上げてきて翌週に提出してください。添削します」と提案してくださいました。

結局僕は、最後の授業まで1回も休まずにそれを続けました。学校が遠かったので、授業前に答案を渡せない時もありましたが、先生は毎回気持ち良く僕の答案の添削をしてくださいました。しかも、きちんと見てくださっていることが伝わる添削で、感謝しかありません。

秀島：先生方が僕たちを大事に可愛がってくださっているのはもちろん感じていましたが、先生自身が授業を楽しんでいるのも感じていました。自然に教室の空気も明るくなるし、そういう授業に行くのは楽しみでした。

授業というよりも、こちら参加



眞嶋 祐季さん（理Ⅲ・聖光学院）



矢野 祥睦さん（理Ⅰ・麻布）

できるパフォーマンスを楽しみにいくという気持ちもあって、毎回、「今日も楽しむぞ」という気持ちでした。
眞嶋：非常に活発な先生が、優しい雰囲気、生徒の心に響く授業をしてくださいました。だから、グノの教室には独特の集中できる空気があります。

グノーブルの環境

眞嶋：僕は恥ずかしがりなんですが、受付には行きやすかったし、質問したかった先生を受付の方がわざわざ呼びにいてくださったりして、そういう丁寧な対応がありがたかったです。

秀島：僕は高2まで部活をやっている、週によって予定が変わることがあったので、振替がとても心強かったです。

それから、校舎があちこちにあったのも助かりました。学校から通塾する時は渋谷、季節講習などで家から通塾する時は新宿、という通い方ができて楽でした。

渡邊：振替があるおかげで、急に予定が入った時でも授業を休む必要がなくてありがたかったです。

受付の方は、複雑な振替をお願いしても、いつも丁寧な対応をしてくださいました。

坂本：当日に他の予定が入っても受付の方が親切に対応してくださって振替できたのが本当にありがたかったです。

矢野：僕も振替のお世話になりました。「グノの授業は休みたくない」という思いを持っていても、振替の制度がなければどうしようもなかった時もありました。

塾にテキストを忘れた時、受付の方が丁寧に対応してくださったのも印象に残っています。

大学入試の面接

坂本：僕は推薦入試だったので面接がありました。普通の面接を想定していましたが、全然違いました。

最初に東大の志望動機を聞かれたところまでは想定どおりでしたが、普通の質問はそれだけでした。その後は数学の好きな分野を聞かれて、「整数論と初等幾何です」と答えたら、整数と幾何の問題を1問ずつ出されました。しかも、整数論に関しては、数式を書いた紙に問題が書かれていなくて、「その数式を3分間眺めてください」とだけ言われました。

3分間眺めたあとに問題を言われ、考える時間もほぼない状況で、ホワイトボードを使って証明をしなくてはなりません。僕1人に面接官8人という状況だったので、かなり緊張しました（笑）。

渡邊：学校で先生に何回か面接の対策をしていただきました。受験した東大、慶應大、日本医科大のいずれも想定問答から大きく逸脱したことは聞かれませんでした。聞かれたのは、医学部の志望動機とか、「自分のどういう面が医師に向いているか？」ということでした。

日本医科大には集団討論もありました。普段ほど頭が回りませんでしたが、それも想定していたので乗り切れました。

眞嶋：医学部受験生にとっては定番の「医学部の志望理由」と「なぜその大学を目指すのか？」とか、高校時代に一番頑張ったことなどを聞か

れました。

僕は慈恵医科大と慶應大と東大だったので、各大学の面接の口コミをネット上で検索して参考に、さらに各大学の教育理念や創始者、著名な卒業生などをチェックしておきました。

理科Ⅲ類の面接はかなりアットホームでした。面接官が相槌を打ってくれるわけではありませんが、僕の目を見て「聞いているよ」という印象がありました。聞かれたのは、医師を目指した動機と高校時代に勉強意外に頑張ったことのふたつでした。饒舌に話したこともあって、思ったほど質問の数は多くなく、終始和やかな雰囲気でした。

後輩へのアドバイス

坂本：結局一般受験はしませんでした。模試の英語でも十分に手応えは感じていました。

グノーブル生は英語を読む速さでアドバンテージを持っているはずですので、焦らずに普段どおりに受験に臨めば、必ず良い点数を取れると思います。

それから、「英語は受験科目だ」と思うと勉強するのがつらくなりますが、グノでは受験勉強を超えた楽しい勉強ができます。その楽しさを大切にしてください。

眞嶋：グノの授業を受けて、先生のおっしゃったことの復習や宿題をこなしていけば、着実に実力が上がっ



渡邊 侑貴さん（理Ⅲ・世田谷学園）

ていきます。それに乗っていけば、受験英語だけではなく英語力が身につきます。

先生方は大変な熱意を持って授業をしてくださるだけでなく、無理を言ってもその要望に対して精いっぱい応えようとしてくださいます。せっかくですから、授業中のキャッチボールだけでなく、自分からプラスアルファを求めていけば、さらなる飛躍を望めるはずです。

秀島：グノを精神的な拠り所してください。僕は、グノの自習室を利用していましたが、友達や先生方と顔を合わせることで精神的に楽になりました。特に直前期にはそれが助けになって、受験だからと緊張することはありませんでした。

それから、グノでは「直前まで過

去問を解かなくていいから授業の復習をしっかりしよう」と言われます。その言葉を信じて、受験を意識するのではなく、「ひとつの通過点として人生に役立つ英語を身につけよう」という気持ちで頑張ってください。

渡邊：先生方は熱意を持って親身に接してくださるので、しっかり受けとめて、自分も熱意を持って勉強しましょう。

グノでは、どの科目でも自然に先生の話に集中して授業を楽しんでいました。時には「おお」と実際に声まで出していました。夢中になって聞いていたことはずっと記憶にも残ります。

あとは、自分なりのやり方で自然に勉強して、そのやり方を確立して

いくのがおすすめです。

でも、直前期は人恋しさが強まるので(笑)、心の拠り所となる先生方や友人を大切に、良い流れをつくってください。

矢野：グノには生徒と先生のコミュニケーションがあるので、受動的ではない能動的な学びを楽しんでください。授業時間以外にも気軽に質問にいけば、丁寧に教えていただけます。そういうのも大切です。

それから、僕は皆さんと違って受験直前まで下のクラスでしたが、グノの先生は「下のクラスだと東大は無理だよ」などとは絶対におっしゃらず、東大の過去問の添削もしてくださいました。自分の目標に向かってしっかり取り組んでいけば、どのクラスでも力がつきます。

東京大学 理系 Part 3

おまた ようすけ
小侯 要介さん (理Ⅲ・海城)

かわぐち いずみ
川口 泉美さん (理Ⅱ・女子学院)

たなべ もえ
田邊 萌さん (理Ⅰ・桜蔭)

はやし しゅんぺい
林 峻平さん (理Ⅱ・海城)

グノの授業がとても楽しかったのは、教室の中の空気をつくっている先生の存在です。先生は高校生の私よりもエネルギッシュです。

びっくりするくらい早口で、身振り手振りもその単語にぴったり合っていて、思わずまねしたくなりました。

田邊 萌さん (理Ⅰ・桜蔭)

東大志望の動機

小侯：高1の時、目指すなら一番上を目指したいと思ったのがきっかけです。当時は理科Ⅰ類志望でしたが、その後医学部志望に変わったので医科歯科大を目指すようになりました。勉強しているうちに成績が上がって、

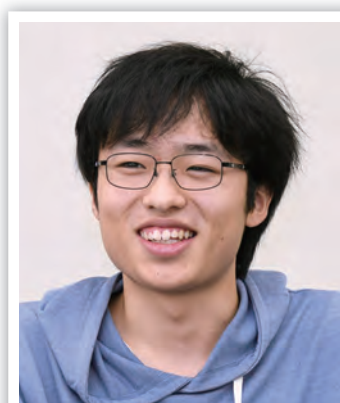
最終的な目標を理科Ⅲ類に決めました。

林：僕は中1くらいから東大という思いがずっとありました。小さい頃から親に五月祭などに連れて行ってもらっていたので、東大への憧れが刷り込まれていたんです。

中高で医学部や他大学にと思った

時期もありましたが、やはり最後は東大に惹かれました。

田邊：私は高2の冬や高3の春、進路を学校に提出しなければならぬ時に初めて志望大学を考えました。周りに東大を目指す人が多いので、東大がいつも視野に入っていたというもあります。



小侯 要介さん (理Ⅲ・海城)

東大は自分が目指せる一番良い環境ですし、興味のある分野で有名な教授もいらっしゃいます。それに、幅広い分野を学んでから自分の進路を考えられる進振りも魅力でした。
川口：私も高2頃から東大を意識し始めて、きちんと決めたのは高3になってからです。

将来は国連のWFP*で働きたいと思っていますが、そのためにはどういう学問を学んだらいいのかわからないので、教養学部でいろいろ学びたいと思っています。

入塾のきっかけ

川口：私は中3の冬頃です。周りの友達がグノに通っていて、「楽しい」「英語力が上がる」という評判を聞いていたのがきっかけです。親も情報提供してくれましたし、自分でも友達にどういった塾がいいのかを聞いて、「グノが良さそうだ」と思いました。

講習だけはいろんな塾に参加しましたが、詰め込み型だったり、受験科目として英語を勉強している印象があって、私には合いませんでした。

グノは英語を通していろんな知識が学べる授業だったので、それがとても気に入りました。

田邊：私は高1の春です。周りの友達が自分の知らない文法用語の話をしているのを聞いて、「学校だけで

英語は大丈夫なのかな？」と不安になりました。

その頃、仲の良い友達の多くがグノに通っていて、とても楽しそうでした。部活が忙しかったこともあり、グノは宿題の量もちょうど良くて「これなら続けられそうだ」と思いました。

林：高校1年に上がる時に「塾に通おう」と思いました。英語なら「グノがいい」というのは、兄の同級生のママ友から聞いていました。

中3から高1の春休みにかけているような塾に行ってみました。他の塾よりグノがなじみやすかったので、入塾を決めました。

小侯：高校1年の冬に入塾しました。林君がすでにグノに通っていて英語が優秀だったので、「自分もグノにしよう」と思いました。宿題の量が多くないのも決め手になりました。

グノーブルの話題

小侯：海城にはグノに通っている人が多くて、グノの話や先生の話をよく耳にしました。先生のまねをしている人もいました。

林：グノでは毎回の授業で添削があるので、その結果について良かった時も悪かった時も話題にしていました。落ち込んだりちょっと得意になったりしながら、互いに競い合えるのはいい刺激でした。クラス分けテストのあとでもそのことを話題にしていました。

田邊：高3になると私の学校でもグノに通う人の数が増えて、やっぱり先生方の身振り手振りをまねしたり、グノで扱った英文の内容が話題になったり、難しい解釈についてはみんなで「こうじゃない？」と話し合ったりしていました。

英文の要約演習のこともよく話題になりました。読解の授業は毎回要約演習が最初で、これはその場ですぐに添削もしていただけて解説もされるんですが、とてもレベルが高く

で本当に鍛えられました。中には全然点数が取れなくて「納得いかない」と言っている人もいました(笑)。でも壁を乗り越えると英文の全体像がすっきり見えてくるようになるんです。

川口：私の学校でも、仲の良い子にグノーブル生が多かったので、テストの結果や先生についてよく話しました。

「何であんなに早口で授業できるの？」とか「どれだけ授業の準備しているの？」という話で盛り上がることもありました。用意される教材が興味深いものばかりだったし、先生の解説は英文の背景にまで及ぶので、深く面白かったです。

グノーブルの英語

川口：良かった点はいっぱいありましたが、特に英文のセレクトがとても好きでした。他塾は過去問の演習ばかりですが、グノは違いました。過去問もあるけれど、科学雑誌の記事や時事ネタとか一般の本からの抜粋も多くて、英語の力がつくだけでなく、教養も深められました。

センター試験の社会の勉強を始めた時に、グノの英文のおかげですでに自分のものになっていた知識とリンクすることが多くて、それが何だかうれしかったのを覚えています。
田邊：私も教材の内容に魅力を感じていました。

私は日本語も含めて文字を読むのが好きで、新聞も毎朝読んでいましたが、グノで扱う英文は知的な刺激にあふれていました。「こんな研究があるのか」とか「この考え方は面白い」と思えるものがたくさんありました。日本語に置き換えてしまうとかわってわかりにくい哲学の話もあつたりして、言葉と思考について考える読み物としての面白さを味わえました。

林：授業の最初に演習をして、添削から解説までその授業内でしてもら

* WFP(World Food Programme)：世界食糧計画



川口 泉美さん (理Ⅱ・女子学院)

えるのがとても良かったです。他塾だと、予習してきた英文を解説されたり、授業内で解いた問題の解説が次の週だったり、間が空きます。英文を読んでから1週間もたつと内容が抜けてしまいます。

一方、グノの授業内演習では、自分で解いて疑問が湧いたところにすぐ対処できました。

小俣：記憶が新しいうちに話を聞ける授業内演習は僕にも大きな魅力でした。他塾の英語は「大量の宿題！」というイメージがありますが、グノの宿題は量が多くありません。

大量の宿題で苦しむことがないのに、効果も効率も上がって、それは模試の結果にも表れていました。

グノの宿題といえば音読です。音読することで黙読では読み飛ばしそうな内容が浮き彫りになって、理解できていないところも明らかになります。そういうところは必ず先生に質問して解決していました。

音読は眠くならないですし、毎日続けていると口も耳も英語に慣れてきます。先生がおっしゃっていたように、スピーチコンテストで壇上に立っているように読むことを意識してやっていました。

林：僕も、音読を続けたおかげで、英語の言い回しが自然と身につきました。英語の表現の型や流れを把握できるようになって、初見の英文でもどんどん頭の中に入ってくる感覚

が養われていきました。

英文を読んでいて、「こういう言い方は前にもあったな」と思えると、とたんに身近なものに感じられるという経験も増えました。

田邊：音読はまず楽しいんです。シャワーを浴びている時に、ふとGSL*のフレーズが口から出てきてどんどん続けられると、それだけで英語が得意になった気がして楽しめます (笑)。

それに、黙読より音読のほうが丁寧に読めました。英文を目で読むだけだと頭に入りにくいですが、音読だと集中できます。

音読に慣れてきて自分なりの復習の仕方が確立できてからは、英単語や派生語が自然に覚えられるようになったし、筆者の主張やその補足説明、例を挙げているところなどもちゃんと意識できて、総合的な復習が音読だけでできるようになりました。

川口：他塾の英語はとにかく書いて覚えることが中心でした。一方、グノは音読中心で、受験勉強を超えて、きちんと英語が身につきました。

音読しているうちに英語を速く言えるようになって、「できている」という実感もありました。音読しているだけで自分の成長がわかるんです。音読した英文は、書いて勉強しただけの英文とは違って、「いつ頃に読んで、こんな内容だった」と今でも覚えています。定着度がまるで違いました。

それから、GSLの音声がきれいで、聞きやすくてまねしやすかったです。自分で読んでいても楽しいし、聞いていても楽しいので、音読を続けられました。

先生がよく「壇上に立って演説するように音読すると楽しい」とおっしゃっていたので、このことを意識して音読してみたら本当に楽しかったんです。他の教科の勉強に飽きた時、音読が気分転換になりました。

小俣：一番上のクラスでなかった高

1の頃、僕はまだグノを完全に信用していなくて、「単語帳をやらないと英語の土台を築けない」と思っていました。だから、高1までは単語帳に取り組んでいましたが、英文を読んでいくにつれて、英文の中で単語を覚えるようになりました。

グノの良さに気づいたのはその頃からです。語源を知りながら単語を覚えるのは、アルファベットの羅列を覚えるのと違って楽しいし、英文の中で覚えていくから作文する時にも使い方がわかります。

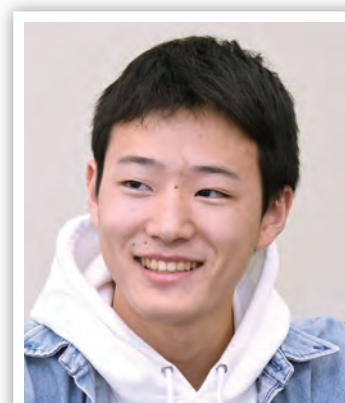
林：僕は小俣君と違ってグノを疑って、ということはありませんでしたが (笑)、単語帳は中学生の時から持っていて、高1の時までにはパーッと覚えてしまっていました。単語がわからないせいで、読めない英文があるのは悔しかったので本気で単語帳をやったんです。

ところが単語帳で単語を覚えていても英文は表面的にしか読めないんだと、内容が難しくなればなるほど思い知らされました。単語の意味を日本語で覚えているから一応は訳せるんですが、「ところでそれはどういう意味？」とグノで先生に聞かれても、全然説明できないことがよくありました。

英語と日本語はぴったり一致していないので、単語帳に載っている意味を覚えていても解釈できないという経験がどんどん増えていったので



田邊 萌さん (理Ⅰ・桜蔭)



林 峻平さん (理Ⅱ・海城)

す。

ところが、グノの解説で英単語の成り立ちを聞いたり、先生が黒板や体を使ってそのイメージを表現するのを見たりしていると「なるほど」と腑に落ちました。英単語を日本語に対応させて覚えていくやり方には限界があって、そのやり方を抜け出してから本当に英文が理解できるようになったのだと思います。

グノの授業で理解して、音読で定着させるという効果的なやり方がわかって以降、つまり高2から受験まで、ほとんど単語帳を開くことはなくなりました。

田邊：グノに入る前に私も単語帳を買っていました。周りの友達も単語帳をやっていて、私も以前は、当たり前の勉強として単語帳の暗記をやっていましたが、それで英文がスラスラ読めるようになったわけではありませんでした。和訳はなんとかできて、その英文の意味がわかっているわけではなかったので、グノの要約は全然歯がたたず、スピードも遅かったので時間内に演習を終えられませんでした。

高2・高3では、勉強のやり方を変えました。グノの解説で語源や単語のイメージをつかんでから英文を音読することにしたところ、段々と本当の意味で英語が読めるようになりました。

川口：私も市販の単語帳を一周した

ことがありましたが、全然覚えられませんでした。それで、グノで習った語源とか単語のイメージを単語帳に書き足していくという使い方に変えました。結果としてかなり便利なノート代わりになりました。

小俣：グノの勉強法は独特なので不安を抱いた時期がありました。他の科目で他塾にお世話になっていて、その英語教材がやたらと多かったし、その塾では単語帳の暗記は当然必須だったんです。

そこで1回だけその講習を受けてみたことがあります。すぐに「合わない」と思いました。英語を言葉として生き生きと学べる授業とは全然違いました。この講習を受けたおかげで、グノの良さに改めて気づきました。

川口：私も、他塾で英語の講習会に参加しました。これがもうびっくりするくらいつまらなくて、「ここでずっとやっていたら私は英語が嫌いになる」と思いました。

勉強で大事なものは、その科目を好きになることです。グノでは、先生自身が英語を楽しんでいて生き生きとしています。だから解説を聞いているだけで楽しいし、先生のジェスチャーも記憶に焼きついていくので、英語自体が楽しくなるんですよ。英語を好きになれるのがグノの授業の大きな魅力です。私も、他塾の講習を経験したことで、「私にはグノしかない」という気持ちになりました。

林：高3で東大模試を受け始めた時にはグノの授業に不安を感じたことがありました。他塾では東大の過去問をたくさん解き、東大入試に合わせた演習をしています。グノでは、先生方がいろいろなところから集めた選りすぐりの英文を教材として扱います。そのため教材はどれもとても興味深く、先生の解説も面白いのですが、東大の形式に慣れていないことに不安があったんです。

でも、模試の点数で他塾の人たちに比べて不利になることはありません

でした。「きっと彼らは東大の入試問題には対応できるけれど、将来論文や本などで英文を読みこなす上では困るだろうな」と思いましたし、自分はそこに対して自信を持っていたので、「グノを辞めて他塾に移ろう」という気持ちには全くなりませんでした。

英語の力が伸びた時期

川口：自分の英語の力に自信が持てるようになったのは高3の冬ぐらいになってからです。

グノで扱う英文には深い内容のものがたくさんあって、自分ひとりで読んでいる時には意味が理解できないこともたびたびあります。たいていは先生の解説を聞くとすっきりするんですが、高3前期で扱った英文の中に、解説を聞いて復習してもどうしてもわからない英文がありました。

語彙力不足というわけではなく、なぜか内容が頭に入ってこなかったのですが、それを高3の冬に復習し直したら、「何がわからなかったんだろう？」というくらいスラスラ読めました。

グノの先生がよくおっしゃることの中に、「大人に向けて書かれる文は、大人だったら当然持っているはずの知識や教養、思考力や想像力などの土台を前提としている」という言葉があります。様々な英文を読む経験を積んで土台も整ってきて、音読で英語の息づかいまでも感じられるようになったのかもしれませんが、この時「英語ができるようになったんだ」と実感しました。

田邊：今は受験レベルの英文なら比較的楽に読めるようになりましたが、これはやはり積み重ねの成果だと思っています。グノに入った最初の頃は単語力もなく英文の構造もわからなくて全然読めませんでした。

グノの授業で扱った英文を、それこそスラスラと口から出てくるく

* GSL (Gnoble Sound Laboratory) : 中1から高3までの6学年すべてに毎週用意されているオリジナルの英語音声教材。

らいまで音読して自分のものにすれば、英語の力だけでなく教養としても積み重なっていきます。

林：高校1年の冬に受けたセンター試験同日模試で、英語が180点でした。周りの人たちがあまり得点できていない中でしっかり9割近く取れていたの、「英語が得意科目になった」という自信につながりました。他の模試でも英語は点を取っていて、「英語は勝負できる科目だ」と思っていました。グノに通い始めた高1の1年間で、受験レベルの英語力まで一気に引き上げられていました。

小侯：その頃の僕は林君と違って、外部模試でも英語は苦手科目でした。グノに入って毎週英文を読むにつれて、前よりも読めるようになっていくという手応えを感じていました。高2のセンター模試では、その前の年よりも50点くらい上がっていました。

グノーブルの先生

小侯：本当に素晴らしい先生方でした。熱意がいつも伝わってきました。先生方の授業にはしっかりとしたバックグラウンドがあって、英文の内容を正しく読み取るには学問的にも社会的にも幅広い知識が必要だということを実感させられました。

林：一番印象に残っているのは、「日本語と英語を一对一で対応させていたら、あっという間に限界に達する」という先生の言葉です。自分

の英語に対する向き合い方が変わりました。全く異なる言語だということを前提に、英語を英語のまま読もうという心掛けをするようになりました。

それから、「文字は記号にすぎないから、記号の奥にある動作や感情や概念を実感しなければいけない」という言葉にもハッとさせられました。

先生は、ただ問題を解いているだけでは気づかないことをきちんと言葉にして僕らに伝えてくださって、それが毎回刺さっていました。先生が教えてくださった英語に向かう姿勢こそが、グノで得た大きな財産でした。

田邊：グノの授業がとても楽しかったのは、教室の中の空気をつくっている先生の存在です。先生は高校生の私よりもエネルギッシュです。びっくりするくらい早口で、身振り手振りもその単語にぴったり合っていて、思わずまねしたくなりました。

私はそういう授業の一場面をイラストにして英文の解説の合間に書いていました。復習する時に「先生はこういう表情で、こういうトーンで読んでいたな」と自然と記憶がよみがえります。復習でも授業を受けているような気持ちになって、音読がさらに楽しくなりました。

川口：私もやっていました（笑）。先生のジェスチャーとか擬音語や擬態語をメモしていました。そうすると、家で復習する時にはっきりと映像が浮かんできて、イメージが視覚的にも思い出されました。

それから先生はよく、英単語の定義を黒板に「オックスフォード君によるとね」と言いながらスラスラと英語でも書いてくださいました。英語の定義だと日本語で説明されるよりはるかに明快でした。

それから、グノの授業が生き生きしていたのは、先生が私たちとやりとりしながら解説を進めてくださったからだと思います。当てられた時



川口 泉美さん（理Ⅱ・女子学院）

に私たちがわからなくても、「じゃあこれは？」と派生したことを尋ねてくださって正解を言わせてもらえるんです。たとえ間違ったことを言っても、丁寧にちゃんと説明してくださいました。

授業中はいつも「間違ってもいい」「ありのままでも受け入れてもらえる」という感じがありました。さらに、一体感というか、クラス一丸となって勉強している雰囲気があって、それも含めてグノの授業が好きでした。

田邊：私は最初の頃、間違うのが嫌で目を伏せようとしていました。でも、先生の解説が面白くて、先生の熱意に元気をもらえるので、つい顔が上がっちゃうんです（笑）。

ただ、あれだけテンポの速い授業で、いつ当たるかなという緊張感があったので、長時間の授業中でもずっと頭は活性化させられていました。

時々、先生が「これは誰が一番最初に反応できるかな」と言ってクラス全員に向かって質問されることがあって、そんな時には頭はフル回転でした。正解した時はとてもうれしかったです。

小侯：最初の頃「当てられたくない」と思っていたのは僕も同じです。でもこの緊張感と楽しさがグノの授業の魅力です。どんなに短い授業でも眠くなることはありますが、グノの長時間の授業はいつもずっとしゃきとして受けられました。

林：高1で入塾した当初は戸惑いや

緊張がありましたが、すぐに当てられることのメリットのほうに圧倒的に大きいと感じるようになりました。間違えたところが自分の中で成長できるポイントになります。そこは、音読をしていても思い出すので記憶に定着しやすかったです。

グノーブルの環境

小侯：グノは振替が柔軟でした。部活がある時に曜日をずらせるのは大きかったです。

林：振替が柔軟なので、例えば、人数の多い曜日の授業を少ない曜日の授業に振替で、できるだけ先生とコミュニケーションをとれるようにすることも可能です。僕はそういう授業を選んで、質問をたくさんさせてもらっていました。

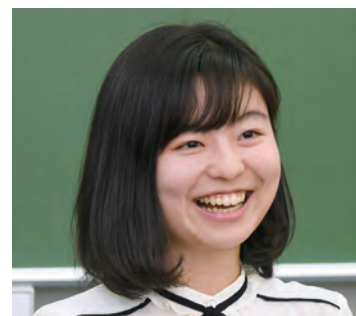
川口：高2の時は部活の部長をしていて忙しく、変則的な予定も多かったのですが、グノは振替があるので、絶対に休むことなく授業を受けられました。

田邊：私にとってはアクセスの良さも魅力でした。学校から近い校舎と家から近い校舎のどちらもあって便利でした。

校舎に入る時、警備の方が「こんにちは」と挨拶してくださるのも印象的でした。

大学入試の面接

小侯：学校の模擬面接で実際に練習していましたが、本番は「面接は重



田邊 萌さん（理Ⅰ・桜蔭）

視していないな」という印象でした。

東大では、医学部の志望理由と、あとは所属していた化学部についての質問がありました。

慶應大の面接は一次試験の成績上位者が対象ですが、2回の面接のどちらも同じことを聞かれたので、形式的に面接をしているという印象を持ちました。

林：慶應大では確かに同じことを聞かれました。趣味の欄で書いた競技かるたやギターの弾き語りのことなど、僕が話しやすいところを聞いてくれて、圧迫感もなかったし、面接で大失敗した感じもなかったです。26日に結果が出て29日に面接なので、間の2日はノーベル賞の内容や薬の名前などを詰め込みましたが、結局役に立ちませんでした。

後輩へのアドバイス

田邊：私には「頑張って復習しなちゃ」という概念が全然ありませんでした。グノの授業の内容を振り返って音読しているうちに、いつの間にか英語が読めるようになっていました。

先生のちょこっとした話もメモしておくで復習が楽しくなるので、そういうところを工夫して、勉強を自分の楽しいものに変えていってください。「ちょっと数学に疲れたから、英語の音読をしよう」というように、楽しく勉強するのが理想です。

小侯：僕が自分で実感したのは「グノーブルを信じてほしい」とことです。僕は疑っていた時期もあったのですが、今は自信を持って、「グノを信じて勉強しよう!」と言えます。僕の場合、以前のグノレットで「グノーブルを信用してください」というメッセージを見ていたにもかかわらず疑った時期があったのでどう言ったら後輩に伝わるかわかりませんが、本当にグノーブルを信じてもらいたいです。

川口：グノの演習は東大型でないし、



林 峻平さん（理Ⅱ・海城）

「過去問に取り組むのもセンター試験後でいい」と言われるので、私はびっくりして「本当に大丈夫?」と不安になりました。私も小侯君と同じように、グノレットを見てもグノを疑ってしまい、いろいろ比較もしました。

それでも「グノを信じたら絶対に大丈夫」というのは今の私の確信です。グノと自分を信じて頑張ってください。

林：僕も同じ意見です。グノをしっかり信用すべきです。

僕の場合、高3に入る時、後悔ないように「全部の英文で音読を10回ずつ1週間でやろう」と決めて実行しました。高3の8月まで部活をしていましたが、音読なら部活の忙しい期間でも継続してできました。

部活引退後、本格的に受験勉強を始めた時も、グノのおかげで英語が安定していたので他の科目に時間を割けました。

グノを信じて音読もしっかり継続しましょう。英語が自分を助けてくれる強い武器になります。



小侯 要介さん（理Ⅲ・海城）

14期生 合格者インタビュー

国公立・私立大学

医学部

【座談会出席者】（五十音順、本文中敬称略）

Part 1



さかい ゆい
酒井 結さん
(千葉大・豊島岡女子学園)



たなか みう
田中 美羽さん
(京都大・筑波大学附属)



つ の えいた
津野 瑛太さん
(筑波大・都立日比谷)



なかやま てつし
中山 哲志さん
(千葉大・筑波大学附属)



はくの よしひこ
伯野 芳彦さん
(慶應義塾大・世田谷学園)

Part 2



いづか りょうた
飯塚 亮太さん
(慶應義塾大・開成)



おかだ あつし
岡田 淳志さん
(慶應義塾大・駒場東邦)



かとう ひとき
加藤 仁規さん
(東大理Ⅲ・開成)



さんとう まさき
山東 真樹さん
(東京医科歯科大・暁星)



まき だいち
真木 大地さん
(東京医科歯科大・浅野)



ゆもと そうや
湯本 蒼也さん
(慶應義塾大・駒場東邦)

国公立・私立大学 医学部 Part 1

さかい ゆい
酒井 結さん (千葉大・豊島岡女子学園)

たなか みう
田中 美羽さん (京都大・筑波大学附属)

つ の えいた
津野 瑛太さん (筑波大・都立日比谷)

なかやま てつし
中山 哲志さん (千葉大・筑波大学附属)

はくの よしひこ
伯野 芳彦さん (慶應義塾大・世田谷学園)

グノは、受験だけを考えた塾ではなく、進学後、さらには社会人になっていくことまでを考えた塾です。このことを理解した上で、高い志を持って、音読などの一つひとつのことを大切にしてください。目標を高いところに設定して、グノについていけば大丈夫です。

伯野 芳彦さん (慶應義塾大・世田谷学園)

医学部志望の動機

伯野：小学生の時に東日本大震災を経験しました。被災地を訪れて初めて災害を目の当たりにし、ショックを受けました。力をつけて人の役に立てればと考え、医師を志すことを決意しました。

酒井：私は小学生時代、インドネシアと中国に住んでいました。その頃から「人を助ける仕事に就きたい」と思っていました。

中2の時に国境なき医師団の方の講演を聴く機会があって、それを

きっかけに、「医師として医療に携わりたい」という決意が固まりました。

中山：小学生の頃、祖父ががんの治療で入院していて、病院を訪れる機会が多くありました。

この時、医師の方や看護師の方の祖父への接し方から、病気の治療だけでなくメンタル的な部分でもたくさんカバーして下さるのを見て、医師という職業に興味を持ちました。

医師についていろいろ調べていくうちに、小児外科医が不足しているを知り、「未来ある子どもを治療する医師が不足している現実を変えていきたい」と思い、臨床医として進んでいくことを決めました。

田中：僕も小さい頃から「人の役に立ちたい」と思っていました。そして、学ぶことが好きなので、「最後まで学び続ける職業に就きたい」という思いもありました。

中学の頃、祖父が1年ほど入院していました。「家に帰りたい」と言っていたのに、家に連れて帰ってあげられないまま亡くなってしまいました。この時、「自分が医師として患者さんに寄り添うことを実践したい」

と考えて医学部を志望しました。

津野：僕は純粋に医学に興味がありました。具体的なきっかけがあったわけではなく、目の前の人を助けられる、やりがいのある仕事に就きたかったからです。

入塾のきっかけ

津野：僕は高校受験をしたので、中3から高校数学を学んでいる中高一貫生に比べて数学がそもそも遅れていました。数Ⅲが始まる前に「中高一貫生に追いつきたい」と思って塾に入ることにしました。

高校受験の塾の数学は、予習していくのではなく、その場で先生が出した問題を解いて解説を受ける授業形式でした。これが好きだったので、同じ形式のグノに数学で入りました。高2の春です。

英語は新高3の冬期講習から通いました。友達に「英語の塾で悩んでいる」と話したら、「グノしか行くところはない」と言われました。数学で楽しく通っていたグノでしたが、後々調べたら英語の評判がとても良いのを知って、英語の受講も決めま



酒井 結さん (千葉大・豊島岡女子学園)

した。

田中：私は中学入学前の新中1のスタートダッシュ講座*からグノに通っています。

中学の頃は英語と数学を受けて、高1の1年間で古文、講習で難関国語も受講しました。

入塾のきっかけは、中学受験で通っていた塾の先生からグノーブルを勧められたことです。お試してスタートダッシュ講座を受けたらとても楽しかったので、そのまま入塾を決めました。

中山：僕は中1から英語を他塾に通っていました。そこは量をこなす方針で、英語を勉強するのが苦痛になってしまい、中3の時に辞めてしまいました。

高1の冬頃、グノに通っていた友人のお兄さんから「授業の質が高い。自分で学習するよりも得られるものはるかに大きい」と勧められて、入塾を決めました。

酒井：私も他塾に通っていましたが、大量の宿題や単語の暗記が負担で、英語が嫌いになりかけていました。理数系で通っていた他塾で、グノと掛け持ちしている人が多かったのと、グノレットの合格体験記を読んで「良さそうな塾だ」と思ったのもあり、高2の秋から英語はグノにしました。

伯野：僕が入塾したのは高1の2月です。その頃、受験勉強を始めたのですが、量は読んでいたけれど、問題を解く方法を全く知らなかったし、答案の書き方もわからず、「塾に入ろうかな?」と思ったのがきっかけです。

同じ高校に自分よりもずっと英語ができる子がいて、その子から「グノーブルが良い」と聞いていたので、体験として春期講習を受けてみて、しっくりきてそのまま続けることにしました。

物理は高2の冬からです。小学生



田中 美羽さん（京大・筑波大学附属）

の頃から塾に通わず独学でやっていて、大手予備校に抵抗感があり、グノ以外は検討しませんでした。

グノーブルの英語

田中：グノは授業が充実しています。一つひとつの英文を丁寧に読んでいくだけでなく、英文の背景や周辺知識も話していただけます。だから、他の似たような題材に当たった時、「こういう授業だったな」「こういう知識もあったな」と芋づる式に記憶を再生できました。

ただ単に英語の勉強をするのではないところがグノの良さでした。

他塾に通っている人たちの中には市販の単語帳を苦勞して覚えている人ばかりでしたが、グノの授業を受けていれば単語帳は必要ありません。**伯野：**1回の授業でかなりの量を読めるのが楽しかったです。しかも興味の持てる英文ばかりで、復習するモチベーションも上がりました。

グノの場合、授業で扱った英文の復習をすることで力を伸ばしていく形式が特徴的です。

他の参考書や問題集は全く必要がありません。授業で扱った英文に焦点を当てるので、ひとつのことに集中して勉強できました。授業を受けて宿題や復習をするというサイクル

には安心感があります。

グノに通っていた英語の得意な子は単語帳などの余計なことをしていませんでした。僕はその子を見ながら勉強法を模索していたので、自分も「グノだけで大丈夫。自分に合う勉強法を見つけられればそれでいい」と思って、他塾の人たちと比べて不安を感じることはありませんでした。

酒井：一番のグノらしさは、ひとつの英文を大事にすることです。他塾だと1回読んだ英文は読み捨てです。一方グノでは、授業内で演習があって、添削もしていただけて、その直後に、解説を受けられます。解説では、英語のことはもちろん、英文の背景知識も詳しく聞けます。それを思い出しながら知識面の復習をして、音読で英語を自分の中になじませるというサイクルで、ひとつの英文を徹底的に読み込みます。

グノの勉強法は独特なので、最初は不安でしたが、担当の先生が先輩たちの成功例を頻繁に話してくださったので、とても説得力がありました。先生が卒業生たち一人ひとりをよく覚えていらっしゃる上でお話ししてくださったので、「先輩もそうだったんだ」と納得できました。

グノレットを時々読み返して「グノについてって大丈夫そうだ」とも思っていました。

中山：グノの授業は情報量が多いです。しかも無駄な情報ではなく、面白くて刺激的な情報がシャワーのように浴びせられる感じです。

それから、大事なことは、「これは先週のあの英文でも出てきましたが」と、先生は何度も繰り返してくださいました。僕は聞いたことを1回で覚えられないので、何回も言うてくださると助かりました。

情報量の母数自体が大きいから、授業の中で覚えられることも多いし、

ちょっとでも残ることがあれば、復習で2割、3割と知識を増やしていけるので効率が良かったです。

グノは場数を踏んで何年も教えている先生ばかりで、授業に無駄がありません。よどむことなくテンポよく進んでいく授業に安心感がありました。

津野：グノの授業は効率がいいと思います。

授業中に英文を読んで、記憶が生々しいままその場で解説を聞き、自分で復習をして、わからなければすぐに質問できるという最短ルートでした。



津野 瑛太さん（筑波大・都立日比谷）

別途英単語だけ暗記しなくてはならないとか、問題集を解かなくてはならないといったことはありません。

僕は実際、受験期の英語の勉強はグノの復習しかやりませんでした。

田中：効率という点では、私は6年間通してグノのカリキュラムを受けたので、塾の中でつくられたひとつの流れに乗れて、とても勉強しやすかったです。

中3から高2くらいまでは、文法がまだ入っていない生徒対象なので、各単元のテーマが毎回決まっていて、そのサイクルを3回繰り返すことができました。

高3からはそのテーマがなくなっ

て、今まで学んできた力を使ってどんどん文章を書いて、読んでいきます。

伯野：受験という感覚で勉強しなくてすんだのでとても楽しかったです。受験だから興味の持てない問題を解かなくてはならない、ではなく、自分の中で教養が身についていくのを楽しめる授業でした。

本を読んでいると自分が賢くなっているのを実感できて楽しくなりますが、グノの授業はそれと同じで、授業を受けるのが楽しくて仕方ありませんでした。

津野：文章の内容が純粋に面白かったです。グノの英文は受験問題の過去問というわけではなく、医学部向けの話も、社会学的な話や哲学的な話もあります。これらを読んでいく中で、必要な英単語が自然と入ってきましたし、文理にとらわれない専門的な用語や知識にも触れられました。

1年間の最初のほうに読んだ文章を復習すると「こんなこともあったな」と記憶がよみがえって、何回読んでも面白かったです。

酒井：私も楽しかったです。いろんな題材の英文があって、英語だけではない知識を得られました。

宿題は多くなくて、音読は「必要だ」と思って自主的にやっていたので、強制感がないにもかかわらずどんどん英語が読めるようになっていきました。強制されるのが好きではない私には最高の環境でした。

中山：毎回新しい文章が配られ、タイムリーな話題も読めて、とても楽しめました。英語を勉強しているというよりも、本や新聞を読んでいる感覚でした。しかも、楽しいだけでなく、英語をスラスラ読めるようになります。

田中：受験勉強という単語帳や文法書を読むイメージがあって楽し

グノでは単語帳や文法書を読むことが勉強の中心ではなく、いろんな話題を英語で読んでいきます。暗記するというより、本を読むように楽しく英語の文章を読んでいるうちに、単語や文法も自然と覚えられます。こんなスタイルが楽しさの要因だと思います。

グノーブルの音読

酒井：グノの特徴には音読もあります。

グノに入塾する前は、英文を頭の中で日本語に変換して、日本語として理解しながら音読していました。グノで音読するようになってからは、英語がそのままスーッと頭の中に入ってきて、英語を英語のまま読めるようになっていきました。日本語にいちいち置き換えなくなるのが一番大きいです。

中山：僕も以前は日本語に直しながら読んでいました。英語は「読めれば終わり」と思っていて、一文一文を和訳して理解できればOKとしていました。

でも、新高3で要約演習が始まって、表面的に読めただけでは要約のしようもなく、さらに筆者の言いたいことを的確につかめないといけないことがわかり、かなりの衝撃を受



中山 哲志さん（千葉大・筑波大学附属）

*新中1対象の講座（2～3月に開講）。

けました。

「和訳するのが英語の勉強だ」とそれまでは思っていたのですが、それをやっている、英語を日本語に直すことに集中して、最初に読んだ内容を忘れてしまいます。

これを改善してくれたのが音読です。読むスピードが上がると、英文を英語のまま理解できます。すると、英語を日本語で理解するのに使う脳のスペースが小さくなって、筆者の言いたいことや文章の内容に脳を割くことができるようになりました。

田中：英語と日本語は語順が違うので、英語を日本語に直そうとすると、最後まで読んでから「ここまでが修飾だ」などと考えて、行ったり来たりしなければなりません。

英語のまま理解できると、最初に戻らなくても英語の語順のまま理解できます。

音読を自分でうまくやろうとすると、英文をしっかり理解していなければならなくて、授業中のノートを見返したり、わからない文法があったら文法を考え直したりして、文章全体の理解も深まりました。

伯野：英文を目で見ていくだけではなく、音声として聞いたり、自分でも発声していくことで、ひとつの言語としての英語力が上がっていくのだと思います。ですから、音読する

ことでいつの間にかリスニングも得意になれます。

津野：僕は英語を英語のまま読むのは何となくできていました。ただ、グノに入ってから、英語を英語のまま読んだあとにどうするかを考えさせられました。英語の字面を追っていても意味がなく、文章としての英語を理解することが大切です。

高3の10月くらいから特に生き生き音読するように心掛けました。英語は言語なので、しゃべることが先にあって、記号として書かれる文字はあとからできたものです。その記号を追ったところで何もならず、根幹にあるものを理解することで、英語が定着します。

音読の効果は意外なところにも表れました。センター試験の国語は、英語の要約で習ったことを日本語で実践しているだけです。国語で筆者の主張や具体例を見分けて文章の流れを理解するのに、英語での音読が生きてきました。

英語の力が伸びた時期

津野：僕は帰国子女ですが、海外にいたのはだいぶ前だったので、英語はできないわけではないけれど、得意というほどでもありませんでした。英語を聞いたり話したりはできても、グノで扱う高度な文章を読む力はありませんでした。でも、グノの授業を受けて単語や文法知識が伸びて、素養もだんだんと整って、論理展開にもついていけるようになると、高度な文章も読めるようになっていきました。

そういう力を総合的に伸ばすのに、音読はものすごく役立ちました。**田中**：私は本当に最後に伸びました。グノには6年間いたけれど優等生ではありませんでした。

私の周りには中1から塾に通っている人は少なく、周りは英語をま

だしっかり習っていなかったの、いつの間にか、自分の中で「英語が得意だ」「英語ができる」と思ってしまっていました。それでダラダラやってきたら、高3になって、要約でもあんまり点は取れないし、過去問を解いても思ったより得点できないことに気づきました。

勉強への取り組み方を変えたのは、高3の夏くらいからです。受験直前には英語は安定したと思えるようになっていました。

中山：もともと英語に苦手意識はありませんでした。でも、グノで新高3生になってから、実は英語がそんなにできるわけではないんだと気づかされました。

要約演習をやってみると、筆者の言いたいことも的確に見抜けないし、全体がどのように組み立てられているかもはっきりしませんでした。

当然、答案には余分なことを入れたり、キーセンテンスが漏れていたといった状態でした。クラス最下位の成績を取り続けて、クラス分けテストの結果クラスレベルも下がってしまいました。

高3の夏に部活を引退してから、やっと音読に本腰を入れて毎日やるようになりました。そこから読むスピードが上がりました。速く読めると、何回も読めたり、しっかり読むべきところにも焦点を当てられるようになって、やっと英語の力が伸び始めた実感がありました。

酒井：私も高3の6月にクラスが落ちて、とても悔しかったし、絶望をかけていました。「自分は音読をやっているのに、音読をやっていない人もいる中で、なぜクラスが落ちたのだろう？」と悩みました。

そんな頃に、先生が先輩たちの話を授業中に紹介してくれました。ここで諦めずに、「絶対、夏のクラス分けテストで元のクラスに戻ろう」と決意しました。



酒井 結さん (千葉大・豊島岡女子学園)

それまでも私は毎日音読を続けていましたが、生き生き読めていなくて、ただ字面を追っていただけでした。このことに気づいてからは毎日20分かけて、自分が筆者になったつもりで生き生きと音読することを意識し、知識面でも抜けていた箇所を固めました。

夏の最後のクラス分けテストでクラスが上がって、模試でも、偏差値85を取ったこともあるくらい成績が上がって、英語をスラスラ読めるようになりました。

伯野：僕の場合は、そこまで英語の点数に上がり下がりがあったわけではなく、苦手意識もありませんでした。でも、どうしてもグノの読解の授業でやる要約の点数が伸びませんでした。

そんな僕が英語でグッと伸びたのは、センター試験が終わったあです。センター対策として初めて本腰を入れて国語を勉強したあとにグノの英語の教材を見直してみると、キーセンテンスが見えてくるようになっていました。英語も言語ですから、日本語から見直すことも大切なのかもしれません。

グノーブルの数学

津野：グノの数学にはふたつの魅力があります。ひとつは授業形態です。

予習するのではなく、その場で解いて、先生に解答を見てもらって、

「ここができて」「ここができていない」と解説していただけたところです。

予習型の授業だと「解説を聞けばいいや」となりますが、授業内演習だと他の人が解き終わったのがわかるというプレッシャーや緊張感がありますし、解説をすぐに聞けるので、何が何でもその時間は集中できます。

もうひとつは、カリキュラムが練られていることです。僕は2年間お世話になりましたが、高2の4月から12月で数Ⅲの基礎や計算方法をまず理解して、12月と1月の冬期講習から高3の夏休み前までにこれらを使って基礎的な問題を解きました。夏休みに入ってから標準問題を解いて、9月から直前期までそれを応用して難しい問題を解きました。

僕自身は数学が得意ではありませんでしたが、順序立てて一個一個のアプローチを教えていただき、自分で復習する期間も設けていただいたので、「解法をどう運用するのか?」「問題でどう聞かれて、それにどう対応するのか?」を定着させられました。

最初の頃は計算練習ばかりで、当時は「難しい問題を解いたほうがいいのかな?」と思っていましたが、振り返ってみると、「定着にける時間も必要だったんだ」と納得できます。グノのカリキュラムは本当によくできていたと思います。

セルフチェックシートも特徴的でした。セルフチェックシートには、宿題で解けなかった問題や何となく解けた問題を分析した結果を書きます。

そうすると「こういう思考プロセスを踏んでいたんだ」と自分でわかるし、できなかった問題も先生の解説に備えて「ここまでできたけれど、ここからわからない」と明確になります。

高校受験する時は数学が嫌でした

が、グノのおかげで数学が嫌いにはなりませんでした。

手応えを感じたのは、高3の9月から始まるテスト演習で良い点を取った時や、過去問を解いていて「これはグノで習った解法を使えば解ける」と気づいた時でした。入試直前には「これは行ける」という自信を持てていました。

田中：私はずっとグノだったので、授業中に問題を解くスタイルは当たり前でした。

他塾の話を聞いていると、「さあ、やってみよう」と問題を解くことから始まるのは変わっていたみたいです。そういう授業だったからこそ、解けた時の喜びが大きかったです。

中1からグノで数学を学べて、6年間数学が嫌いになったことは一度もありませんでした。カリキュラムが練られているのは本当にそのとおりだと思います。基本的な問題から発展的な問題に進んで、高3ではテスト演習があります。グノの考えたカリキュラムを6年間通して受けられたことで、数学の実力が身につきました。

セルフチェックシートは、家に帰ってから書きます。自分で復習して「ここで詰まって解けなかった」「ここでこういう手法がわからなかったから解けなかった」「ここがわかればここまで行けた」など、数学の力という点に至らなさがよく自覚できました。



田中 美羽さん (京都大・筑波大学附属)



伯野 芳彦さん (慶應義塾大・世田谷学園)

テストに対する取り組み方を自分の中で考えることもできるようになりました。例えば、私はいきなり計算の問題に取り組むとミスをするからじっくり考える問題から取り組もうとか、積分が得意だから積分を解いてから他の問題を解こうといったことです。

私は最後までずっと計算が苦手で、計算問題の多い私大の受験では、落ち着いて解くことを心掛けました。逆に、考えることが好きで得意なので、習ってすぐ演習というグノのスタイルは合っていました。

国立の志望校はじっくり時間をかけて解ける試験で、その場で出された問題を考えて解くには自信があったので、「できないかもしれない」と考えるよりも、「出された問題にしっかり取り組んで、落ち着いて考えれば合格点は取れる」という自信につながられました。

グノーブルの物理

伯野：高校2年の初め頃、独学で受験物理を終わらせて「あとはいったい何に手をつけたらいいのか?」「もう過去問を始めるべきなのか?」とわからなくなっていて、通塾を考えました。英語で通っていたグノの物理の冬期講習も受講してみたら楽しくて、そのまま続けることにしました。

教室はアットホームで、先生は何を質問してもすぐに答えてくださいました。少人数なので質問される時も一人ひとりにかける時間が長く、その場で考えさせる内容が多かったです。受験で問われない問題にまで足を伸ばすこともよくあって、物理の本質を考える上で大切なこと、教科書には書いていないことも学べました。

テストゼミは時間制限を設けない方式で、ひとつの問題にじっくり取

り組めたので、個人的にはとても好きでした。

自分で勉強していた時は、問題を解くためだけに公式を暗記していました。一方、グノの物理では物理の歴史や日常生活での応用などを重視した内容を扱うので、もともと好きだった物理がさらに好きになりました。

グノーブルの国語・小論文

酒井：古文と漢文をセンター試験対策として受講しました。覚えるべき知識を全部まとめたプリントをいただいて、それをしっかり復習したら、本番は古文も漢文も満点でした。先生に現代文のほうもアドバイスをいただいたのですが、そうしたら評論も満点でした。

国語が苦手な私にとっては、センター試験の古文・漢文と評論で満点を取れたのは大きかったです。

小論文は第一志望の受験科目にありませんでした。不安だったので、新高3の冬期講習から春期、夏期とグノで講座をとりました。先生が時事的な知識やそれらの活かし方を教えてくださいました。小論文を書く練習が本番の面接で役立ちました。

田中：古文は高1の1年間、難関国語は高3の季節講習で2回くらい受けました。

小学生時代から国語が得意でしたが、中学で古文を全くやらなかったもので、高校で古文が始まるのに何も知らないのは不安でした。ちょうどその時、グノと一緒に通っていた友達が「古文をとる」と言ったので、私も一緒に通い始めました。もともと百人一首が好きで古文に興味があり、1年間楽しく古文を学べました。

習い始めの頃は受験で古文を使うかどうかはわかりませんでした。でも、1年間のグノの学習だけで、問題集も単語帳も使わず、理系なのに

古文がアドバンテージになりました。

中学3年間で演習としての古文には触れてきませんでしたが、グノで古文をしっかりと演習して、文章をいくつも読んで、場数をこなせたのが良かったのだと思います。入試本番でも古文が一番できたくらいです。

難関国語の講習は現代文を選びました。現代文は、小学生の頃に塾で習った国語とは全く別物です。講習での演習と解説を通して、現代文への取り組み方を体得できました。

グノーブルの先生

伯野：先生との距離が近いです。

受験直前期、僕は過去問の添削をメールで英語の先生にお願いしました。膨大な量の添削をしてくださって、それに対する解説もとても丁寧で、僕ひとりのために時間を費やして対応してくださいました。本当にありがたかったです。

津野：グノーブルの先生がすごいのは、当たり前のように生徒の顔と名前を覚えてくださるところです。

例えば、高1の夏の2日間だけ講習に参加し、高2から数Ⅲで本格的にお世話になった先生は、高2の初回の授業で、僕のことを覚えていて「去年の夏休みにいたよね」と声をかけてくださいました。とてもうれしかったです。

受験期に、周りの人たちはみんな、「頑張ってください」と声をかけて



津野 瑛太さん（筑波大・都立日比谷）

くださいましたが、グノの先生方から声をかけられると本当に励みになりました。

田中：どの先生も面白い話をしてくださいまし、優しく親しみやすかったです。人見知りの私は、知り合いがいない教室では固くなってしまっていました。でもグノだと、先生が「自分をちゃんと見ていてくれている」と安心できました。

中山：僕は高3の7月の終わりまで部活をやっていて、大会にも出ていて、なかなか音読の時間をとれませんでした。だから、成績がひどくてクラスも落ちてしまいました。

でもその時に、クラスが下がる前最後の授業で先生が個人的に、「引退してからが本番だよ。夏休みの最後にクラス分けテストがあるから頑張ろうね」と声をかけてくださいました。その言葉がモチベーションになって、とてもありがたかったのを覚えています。

酒井：先生が一人ひとりを見てくださるのは私も本当にうれしかったです。

私もクラス落ちしましたが、またクラスが上がった時、先生から「お帰りなさい!」と言ってくださいました。些細なことかもしれませんが、「覚えていて、気にかけてくださっていたんだな」と思ってとてもうれしくなりました。

グノの先生は全員、教養にあふれていて、「英語の先生なのに、どうしてこんなにいっぱい知っているんだろう?」ということばかりでした。人として尊敬できる先生方です。

医学部の面接

伯野：僕は慶應大と医科歯科大を受験しました。

医科歯科大は「国立なのでそこまで面接を重視しない」と聞いていて、実際に厳しくありませんでした。



中山 哲志さん（千葉大・筑波大学附属）

一方、慶應大については、模擬面接までしたわけではありませんが、時事問題について自分なりに調べたりまとめたりしていたことを見直して臨みました。また、家族と医学系の話だけでなく社会問題に関する議論も時々していましたが、これが面接で役立ちました。

酒井：面接点の比率が高い私立を受験したので、それが国立の面接対策にもなったと思います。「受け答えは大丈夫だ」とある程度の自信が持てるようになっていました。

ですから、千葉大受験前日は、聞かれそうな問題を親と練習した程度でした。

千葉大の面接にはMMI*というものがあります。「自分が医学生になった立場で、こういう事態が起こったらどう振る舞うか?」を5分×3回行います。

面接の最初に「医学的知識は必要ないから、君の考えを言えばいい」と言われたので、知識の有無は気に



伯野 芳彦さん（慶應義塾大・世田谷学園）

しなくても大丈夫でした。

中山：僕の印象では、順天堂大はお客様対応で全体的に丁寧で、面接官が「引き出そう」としてくれました。

それに対して千葉大は、時間も短いし、正直なところ丁寧とは言えない対応でした。面接がどう得点化されたかはわかりませんが、医学的知識ではなく、受験生自身の考えが聞かれ、僕の説明が足りなかったからなのか、千葉大は重箱の隅をついてくる印象もありました。

田中：京大の面接は、受験手続きに同封されている用紙に記入した志望動機や自己PRなどをもとに聞かれるだけでした。そこをしっかりとめていけば、面接では自分の言葉で話すだけです。

面接官3人から、「ここにこう書いてあるけれど、これはどうなの?」という感じで質問されました。事前に対策らしい対策をせず、本番も緊張しませんでした。

私大のほうが面接が重視されているところだったので、インターネットで聞かれ方を調べて練習しました。**津野**：僕は筑波大と防衛医科大を受けました。

防衛医科大は特殊で、一次試験の合格者を対象にした説明会があり、そこで大学の入試対策をしてくれます。大学の担当者は来ないけれど、自衛官の方たちが来て「防衛医科大ではこういうことが聞かれそうです」と教えてくれます。京大と同じで自己PRを事前を書いて郵送します。合格のコツは、大学の説明会に行くことと、自衛官による面接練習があるのでそれを活用することです。

筑波大は面接点の比率が高いので要注意です。僕は私大を一校も受けていないので対策に悩みましたが、「理由の理由」を大事にして本番に臨みました。「理由の理由」とは、例えば「人の役に立ちたい」という志望理由について、「どうして人の役

* MMI (Multiple Mini-Interview) : 受験生が複数の面接室を移動して、それぞれの部屋にいる面接官と様々なテーマで質疑応答を行う形式。

に立ちたいのか？」をさらに掘り下げる感じです。他にも、自分の長所・短所、筑波大学を選んだ理由など、聞かれそうなことについては準備していききました。

2回の面接のうち1回は千葉大のようなMMIです。MMIは対策のしようがないので、過去の質問を調べて「大体こんな感じかな？」というのをつかんでおきました。

後輩へのアドバイス

津野：グノの音読はしてください。音読を始めるのは早いに越したことはありません。決心したその日から集中して、毎日5分でもいいから音読すれば、英語で武装できます。

田中：グノは授業が充実しているので、授業をしっかり受けるのを徹底しましょう。

復習は早いうちに始めないとプリントがたまります。いざ始めようと

思った時にプリントの山があると、どこから手をつけたらいいかわからなくなるので、授業を受けたらコンスタントに復習することが大切です。

復習の習慣を続けていれば、グノの授業と復習だけで過去問を解く力も合格する力もつきます。グノの授業と復習に力を入れてほしいと思います。

中山：グノは良い意味で焦らせず、毎週同じことを繰り返して積み重ねていくスタンスです。他塾が「センターまであと何日」と言っている時でも、グノに来ると落ち着いて受験勉強ができます。グノをペースメーカーにして、毎週復習をしっかり積み重ねていけば、受験に対応できる実力はしっかりつきます。

グノを信じて、長い受験期間を焦らずに落ち着いて乗り切ってください。

酒井：グノの先生は担当科目につい

て「どうやったら伸びるか？」を知っていらっしゃいます。だから、先生の言うことにしっかり従ってやっていけば必ず伸びます。

大学受験においては、英語ができると多くの学校で楽になります。数学はその日の状態などに左右されますが、英語は安定して点を取れる科目です。グノで先生の言うことを聞いて英語を学んでください。

伯野：グノは、受験だけを考えた塾ではなく、進学後、さらには社会人になっていくことまでを考えた塾です。このことを理解した上で、高い志を持って、音読などの一つひとつのことを大切にしてください。

医学部志望でしたら、「どうして医師になりたいのか？」といったことを掘り下げながら、目標を高いところに設定して、グノについていけば大丈夫です。

国公立・私立大学 医学部 Part 2

いづか りょう た
飯塚 亮太さん（慶應義塾大・開成）

おか だ あつ し
岡田 淳志さん（慶應義塾大・駒場東邦）

か とう ひと き
加藤 仁規さん（東大理Ⅲ・開成）

さんとう まさ き
山東 真樹さん（東京医科歯科大・暁星）

ま き たい ち
真木 大地さん（東京医科歯科大・浅野）

ゆ もと そう や
湯本 蒼也さん（慶應義塾大・駒場東邦）

数学は中2から通い始めました。

高3からのセルフチェックシートには、自分の解き方を客観的な視点から自分で評価できるというメリットがありました。

もともと数学は得意科目でしたが、グノのおかげでさらに成績が伸びました。

真木 大地さん（東京医科歯科大・浅野）

医学部志望の動機

加藤：幼い頃から掛かりつけ医の先生に憧れていて、「医学部に行きたい」と思っていました。

中高では他の進路についてもいろいろ調べましたが、やっぱり自分がこれから蓄えていく知識を患者さんのために幅広く活用していくプロセスが「自分に合っている」と感じ、改めて医学部を目指すことにしました。

志望大学を決めたのは高2の秋です。東大は教授と学生のレベルが高いし、医学部は学費が高いので国立が魅力的でした。1、2年の教養学部で幅広く学べるのも良い環境だと思います。

山東：ふたつのきっかけがあります。ひとつ目のきっかけは、小学生の頃に検査入院した時です。当時の担当医の先生がこちらの気持ちに寄り添った配慮をしてくださって、その時から医者に憧れを持つようになりました。

もうひとつのきっかけは、高校2年の時に参加した東日本大震災の復

興ボランティアです。障害のある子どもたちの見守りをする機会があり、「子どもたちが安心して成長できる手伝いをしたい」と思い、小児科医を志しました。

真木：5歳の時、頭を切る大けがをした経験があり、この時、担当の先生がダメージを少なくする治療をしてくださいました。「医師はかっこいい」とその時から憧れ始めました。

高校時代には、生物学に進もうかと迷った時期もありましたが、やはり、人体と病気のメカニズムに興味があって、研究医としてやっていきたいという思いを今では持っています。

飯塚：医学部を志望したのは、亡くなった祖父を親と一緒に見守った経験があるからです。祖父は認知症を患っていて、本人だけでなく周りの家族にとってもつらい病気だと実感し、高校入学後には医師の道に進もうと志望が固まっていました。

岡田：祖父が医師だったので、幼い頃からよく話を聞いていました。「大人になったら何をやりたいか」と考える前に「医師になりたい」と

思っていました。

湯本：医学部を志望したのは慶應大の医学部の合格発表後です。もともと医学部に行くつもりはなく、慶應大医学部の受験は東大受験の緊張を慣らすためでした。

医学部合格後、父の友人から医学の話聞いて、それまでは「理科I類で数理研究をしよう」と思っていたのですが、「医学研究も面白そうだ」と思いました。東大の合格発表までどちらにいくか悩んで、最終的に慶應大を選びました。



飯塚 亮太さん（慶應義塾大・開成）



岡田 淳志さん（慶應義塾大・駒場東邦）

入塾のきっかけ

真木：新中1のスタートダッシュ講座*から英語を受講し始めました。親から提案されて、「春休みは余裕があるから行ってみるか」という軽い気持ちで英語の講座に参加しました。

そこでフレンドリーな先生と出会って、「すごくいい」と感動しました。アルファベットのAの成り立ちから教えていただけたのも印象的で、「この塾なら新鮮な気持ちで学べる」と思ったのも入塾のきっかけです。

この時から6年間、「他塾に移ろう」と考えたことはありませんでした。中2からは数学もグノに通いました。

岡田：中1の夏に親から勧められて英語で入塾しました。

学校で英語の成績が良くなかったので、「基礎から固めたい」と思ったのがきっかけです。

宿題が多くなく、学校と両立できるのも魅力でした。

古文は高1の1年間で完成できました。

飯塚：親が「グノの英語は良い」という評判を聞いてきて、中3になる時に体験として季節講習を受けました。

グノは集団制ですが、先生が生徒

一人ひとりの顔を見ながら授業をしてくださるのが印象的で、「グノで頑張っていこう」と思い入塾しました。

山東：同じく中3からです。

グノの良い評判を聞いて英語の季節講習に参加してみたのも同じです。

その頃、学校の周りの人たちが予備校に通い出して、自分も英語が得意ではなかったのが、「遅れてはならない」と思って塾探しを始めました。大手も考えましたが、「勉強に集中できる環境は？」という基準で考えてグノにしました。

古文を高2で受講しました。国語が苦手で、特に現代文がとことんできなくて点数を取るのには難しいから、「古文・漢文でしっかり点数を取ろう」と思ったのがきっかけです。

それから高3で小論文を受講しました。

湯本：やはり中3での入塾でした。

英語が得意ではありませんでしたが、「英語は大学受験で重要だ」と聞いていました。対策を立てるために自分で調べ、英語の評判が良いグノに決めました。

加藤：僕の場合は、親から「グノの英語が良い」と聞いていて、中2の夏に英語で入りました。でも1回辞めて、他塾をいろいろ見たあと、「やっぱりグノだ」と思って中3の夏に入り直しました。

グノーブルの英語

加藤：グノは全体的にレベルの高い文章を扱っていたので、グノの文章を読んでいると、東大模試の文章が自然と簡単に思えてきます。

単に難度が高いだけではなくて、文章の内容に興味が持てる題材が使われていて、先生の解説が文章の背景にまで及ぶので、内容を楽しみながら英語の勉強ができるのがグノの英語の大きな特長です。

単語の暗記やテストがなく強制されないから、それもひとつのモチベーションになりました。

楽しめる英文なので、復習しようとも思えるし、深い内容なので復習しがいもあります。

先生がフレンドリーで、メールで質問したらすぐに返信してくださるのも助かりました。

そうやっているうちに自然に知識も増えていくし、自分が知らない言い回しなども身についていくのもやる気につながって、こういうのが本当の勉強なのだと思っていました。

クラス分けテストも適度であって、そのために復習したり、その結果を見るのも、モチベーションにつながっていました。

湯本：グノの英文への取り組み方は深いから面白いんです。

ネイティブの人は英文を書いていく時に、同じ言葉や表現を繰り返し使うのを避ける、というのを教えてもらったのもグノです。でも、自分ではどの表現が、どの表現の言い換えなのかは、初めのうちは気づけません。先生が「これは今まで出てきたどの言葉の言い換え？」と聞くとクラスの全員が一斉に探し始めるのですが、なかなか見つけれられないんです。

でも、次第に読みながら自分でも



加藤 仁規さん（東大理Ⅲ・開成）

気づけるようになっていき、そうすると英文全体の見通しもすごく良くなって、どんどん読解力が高まっていく感覚がありました。

単語を語源からイメージして、派生させながら意味を捉えたり、単語の仲間を増やしていけたりできたのも特徴的でした。丸暗記が好きではない僕の性格に合っていて楽しかったです。

文章のレベルも高くて深くて、解説を聞くとすごく面白くなっていくグノの授業では、英語力が伸びただけでなく、いろいろな教養も深められました。

山東：授業中に演習があって、すぐに解説を聞けるのが良かったです。演習でわからなくてモヤモヤしていたことをその場で解決できました。

様々なジャンルの文章を読めて、それについての背景知識も解説していただけるので、幅広い教養を身につけられました。英語の勉強をするというよりも、教養を学んで新しいことを知る授業でした。

飯塚：授業の初めに演習といっても、こちらにも単に設問を解くことに終始しているわけではありません。先生は英文の背景知識や単語の語源など深い解説をしてくださいますが、深い質問も飛んでくるので、演習している時にも、たとえ設問になっていな



山東 真樹さん（東京医科歯科大・暁星）

いところでもしっかりと掘り下げて読むのが、いつの間にか習慣になっていました。

杓子定規の受験英語を勉強するよりも、圧倒的に楽しんで授業を受けられました。

岡田：授業内演習では、先生にその場で添削していただけるので、ダラダラとやらずに緊張感を持って真剣に問題に向き合うという点でも本番に近い状態で取り組みました。

それから、単語帳で単語を覚えるのが好きではありませんでした。グノでは語源から教えていただけて本当に良かったです。アルファベットがただ並んでいるだけだと思いながら覚えるのは苦痛でしかありません。**真木：**英単語のイメージをつかめるようになったのは本当に良かったと思っています。単語帳では英語と日本語をセットで覚えることが多いですが、グノでは語源やイメージを主体にして意味を派生させていく覚え方です。

そのおかげで、いちいち英語を日本語に訳す作業を介さなくても、英文をスピーディに読めるようになりました。

グノのやり方でその効果を実感していたので、分厚い単語帳を必死に覚えている人が周りにいても、それを見て焦りを感じることもありませんでした。

中1からグノに通っていて、周りよりも楽な勉強法だったにもかかわらず、学校では順位が高いほうでした。焦りを感じるどころか、むしろ「自分は楽に効果の上がる覚え方をしている」という気持ちを持っていました。

岡田：僕も効果を実感できていたもので、グノの覚え方が特殊でも不安はありませんでした。

予習よりも復習をメインに、同じ問題を味わいながら深めていく勉強スタイルは僕には合っていたので、



真木 大地さん（東京医科歯科大・浅野）

「このままグノを信じて勉強していけば大丈夫」と思っていました。

飯塚：確かに、周りには単語帳で詰め込んでいる人が多かったです。一方、グノでは、扱った英文の復習がベースにあって、単語も自然とどんどん身についていきます。語源やイメージを大事にしながら、英文の中で英単語を覚えていけば、未知の単語が出てきても文脈から推測できるようになって、英語の力が自然と身につきます。

山東：周りに単語帳や文法書を暗記している人がいたけれど、もはややっていることが全然違うので、「グノでは受験勉強を超えた英語の勉強ができています」と思っていました。

湯本：丸暗記をしていないと学校の小テストが悪い点数になって悲しい思いはするかもしれません。だからといって、焦って「単語帳をやろう」とは思いませんでした。グノを信用していて割り切っていたし、「英語力は丸暗記の単語力ではない」と思っていたからです。ちゃんと英文を読めたし、成績も悪くなかったのが、気にしないようにしていました。**加藤：**グノの勉強法には不安を持ったことはありませんが、別の意味で不安に感じたことはありません。

僕は帰国子女で英検も取っていて、

中学の頃は学校の中でも「英語は大丈夫だ」と思って周りをあまり気にしていませんでした。

ところが、高校に入ってから東大型の問題の演習ばかりやっている人々には点数で勝てないことが多くなってきて不安感を持つようになりました。

段落整序や正誤問題などは、解き方のテクニックを知らないと不利になるし、時間配分にも慣れていなかったからです。文章を読むことや英語を話すことはできたので、実用的な面では不安はありませんでしたが、受験英語としては周りに劣るのではと感じました。

ただ、「受験問題ばかり解いてもどうしようもない」と中学受験の頃から思っていました。

でも、結局はグノの英語をやり続けることで、得点力もつきました。

具体的にはまず、帰国生でも音読に真面目に取り組むようにしました。

苦手な和訳を克服するために、授業の間も先生の訳し方を全部メモして、家に帰ってから細かなニュアンスの捉え方などを振り返るようにしました。

要約では大事な部分を見抜くのが苦手だったので、まとめる時のポイントも自分なりに一般化するようにして、自分で添削しながら赤字で書き込み、一般化の妥当性とか不明な点は頻繁にメールで先生に質問していました。そのうちに、大事な部分が自然と光って見えてくるようになりました。

グノーブルの音読

湯本：要約には僕も真剣に取り組んでいました。

英文のポイントを読み取ることも、それを的確な日本語で時間内にまとめることも簡単ではありません。特に直前期は、それまで扱ってきた要

約問題を、時間を決めて読み直して答案を書き直し、グノのHPに上がっている模範解答例と照らし合わせて、自分なりに十分納得した上で、今度はその英文を音読するというのをやり込んでいました。

音読を本格的に始めたのは高3の夏からです。

それまでの音読は棒読みのようなお経読みになっていました。これを改善するため、理系の英語サイトを聞いて、そのサイトのナレーターになったつもりで、オープニングを頭に流しながら音読しました。

英語のイントネーションやリズムである程度音読できるようになってきたら、さらっと流していた部分もよく考えられるようになって、「こういうことだったんだ」と再発見する機会が増えました。

グノで以前に扱った文章を読み直して、メモに残っていなかったことについても「こういうことを言っていたのかもしれない」と気づけるようになりました。

「英語らしく読めるから文章の真意をつかめるんだ」と思えるようになったのが、きっかけで音読が楽しくなりました。

真木：高1の冬からコンスタントに音読するようになったおかげで、模試の成績が上がって自信になりました。



湯本 蒼也さん（慶應義塾大・駒場東邦）

た。

「英語の勉強は本当に面白い」と思えたのは高3に入ってからです。扱う英文の内容が最新の話題だったり、有名な本の一節だったり、ジャンルも幅広くなくて、毎回新しい発見があり、授業も復習も楽しくなりました。塾からの帰り道で、内容を意識しながら口パク音読するのが習慣でした。

山東：実は高2まで復習も音読も一切やっていなくても最上位クラスだったんです。そうしたら、高3の最初のクラス分けテストでひとつクラスが落ちてしまい、それからです。焦って復習と音読をやり始めました。毎回の授業の復習と要約問題の音読は欠かしませんでした。なかなかクラスが上がらず苦労しましたが、8月の最後のクラス分けテストで1番上に戻れました。

岡田：僕も高2までは復習も音読もせず、宿題だけをやっていました。

高3になってからは2、3日に1回は音読するようになって、秋からは毎日音読するようになりました。

「筆者は同じ単語を何度も繰り返すのを避けてこの単語に言い換えている」とか、「ここが主張で、ここはその補足説明」とか、授業で先生が話して下さった解説を意識しながら、音読できるようになると、要約問題の英文でなくても、「要約の時はここをまとめるんだな」とわかるようになりました。

飯塚：グノは多彩な文章を扱ってくれるので、それを復習していくには飽きるということはありません。復習する時の焦点の当て方を単語単位、それから文単位、そしてパラグラフ単位と広げながら、最終的には文章全体の流れを捉えたり、あらゆる視点から文章をかみ砕いて理解するようにしました。それができてから、こまめに音読していました。

加藤：英語自体はもともと好きで、「つまらない」と思ったことはありません。

でも、試験で点数が取れない時は、受験英語をやらなくちゃダメなのかという気持ちになって嫌でした。

高3の夏から本格的にグノの復習を始め、音読もしっかり行うようになったら、秋の模試で点数がすごく上がって、学校でも順位がすごく上にいきました。この時、「グノのやり方だったら受験英語を続けてもいいな」と思えて、受験英語に対する嫌悪感がなくなりました。

グノーブルの数学

真木：数学は中2から通い始めました。グノの数学は学校よりもセンスに頼らない数学でした。「こういうステップを踏んで、次にこういうステップを踏んで……」というような明確な言葉を先生が与えて下さったからです。

高3からのセルフチェックシートには、自分の解き方を客観的な視点から自分で評価できるというメリットがあります。復習の時、セルフチェックシートに「こういう問題ができなくて悔しい」という感情を書くこともあります。でも、2回目に解いてすんなり解けると「成長した」という自信にもつながり、モチベーションを保っていられました。セルフチェックシートに感情的な文



飯塚 亮太さん（慶應義塾大・開成）

章を残すことで、それを見返した時に自分の成長を実感できました。

もともと数学は得意科目でしたが、グノのおかげでさらに成績が伸びました。伸びが感じられたのは高3の秋から始まるテスト演習でした。最初の1、2回はとんちんかんな解き方をしていましたが、どんどんロジカルに考えられるようになったのが大きかったと思います。

グノーブルの古文

岡田：英語と同じで、グノの場合、古文単語も成り立ちから説明してもらえます。

単語の丸暗記をする必要がなく、文章の中で単語や文法も覚えられました。

先生が直接添削してくださって、「自分のどこが良くなかったのか？」も明確になったので勉強がやりやすく効果も上がりました。

山東：エネルギーが先生が絶妙なたとえ話をしてくださり、とても面白かったです。

毎回全訳演習をするのも特徴的でした。普通の演習だと傍線部を訳すだけで、文法事項に気を取られてしまいます。一方、全訳演習だと、文章全体を考えなければならぬので、文章を文章として楽しむことを学べました。

古文単語も語源から説明されて、現代語に通じることがよくわかり、「面白い！」と思っているうちに身につきました。

グノーブルの小論文

山東：文章を書くのが苦手だったので、高3から小論文を受講しました。

以前は、「小論文では自分の体験を書け」と言われても、取り組み方もわからないし、独りよがりになるだけだと思えて、やる気につながり



岡田 淳志さん（慶應義塾大・駒場東邦）

ませんでした。

グノの小論文では、客観的にニュースを取り上げることが求められて、それには納得がいききました。自分の体験ではなく、周りの世界に目を向ければ書く材料を興味を持って集められるし、周りの世界への関心も増して自分なりの意見も持てるようになりました。

先生がすべて添削を動画で返却してくださったので、声を通して指摘を受けるのは文字とは違った感覚があって印象に残りました。

最初の頃は仕上げるのに時間がかかりましたが、夏休み明けからはスラスラ書けるようになりました。順天堂大の面接は事前に書いた小論文をもとに行われますが、面接官に「小論文がうまく書けているね」と褒められました。

医学部の面接

真木：医科歯科大は、面接官3人で5分くらいの明るい面接でした。

医師を目指す理由や医科歯科大を選んだ理由などのよく聞かれる質問があって、その後高校のことを聞かれました。「部活動で何をやってたか？」とか「部活動で得られたものがあったか？」とかです。

「ちょっと自己紹介をしてみてください」とも言われました。

面接の過去問題集を事前に見ていて、1分間くらいの自己紹介が来る



山東 真樹さん（東京医科歯科大・暁星）

のはわかっていたので、事前に自分なりの答えをつくり声に出して練習していました。

山東：医科歯科大は面接が明確に配点化されているので、対策をしていました。

でも、自分が受けた後期試験では5人の面接官がひとつずつ質問して5分くらいで終わってしまい、他の受験生と差がつきそうもありませんでした。

よほど医師に適性のない人を省くための面接ではないかと思います。

岡田：慶應大の面接は15分が2回あります。1回目よりも2回目のほうが厳しめでした。

聞かれたことは医学部の志望理由などで、医学とは関係ない質問もありました。「慶應大と千葉大の両方に受かったらどちらに行くか？」と聞かれて、その時は決まっていませんでしたが、「慶應大に行きます」と答えました。ただ、僕のためらいが見えたのか、問い詰められました。

他の大学も受けたので、それが面接の練習になって、慶應大の面接では慌てることはありませんでした。事前に前向きな志望理由を考えておいたり、慶應大学の理念を確認したりしたくらいです。

飯塚：岡田君の言うように、慶應大では15分くらいの面接を2回受けました。

1回目が特に印象に残っていて、医学部の志望理由などの通り一遍の

ことよりも、こちらの人となりに興味があって質問している印象がありました。

自分が医師に向いているアピールとして「真面目で粘り強く物事に取り組みます」と答えたら、「真面目で損したことはないか？」という挑戦的な質問をされました。

さらに難しい質問は、「救えない患者がいた時、あなたはどのような対応をするか？」というのもありました。

事前にネットでリサーチして、頻出の質問に関しては簡単な答えを作っておきました。実際に紙に書いて用意したのではなく、頭の中に答えを入れ、その後親に手伝ってもらい面接形式の会話をしました。

湯本：東大入試が終わったあとの2日間で慶應の面接対策をしました。

医師を目指す理由などの典型的な質問を準備しておいただけでなく、理Ⅰを受けたのでそこが突っ込まれると思って答えを用意しておきました。

実際の面接では「読書はしますか？」と聞かれ、僕は高3の時に夏目漱石を読んでいたので、それについてずっと語っていたら面接が終わっていました。

印象に残っているのは、夏目漱石関連で「あなたにとってエゴイズムとは何ですか？」と聞かれたことです。とても焦って話が逸れかけてしまいましたが、とにかく話し続けました。

2回目で祖母の認知症の話をしたところ、認知症患者への対応を聞かれました。「もしあなたのおばあさんが、夜中に『財布が盗まれた』と言ってあなたを起こしてきたら、何と言って対応しますか？」セリフ口調で答えなさい」と聞かれて、焦ってオドオドしてしまいました。そうしたら、面接官が優しく、「これは応用編だから勘弁してあげる」とい

う感じで終わりにしてくれました。全体的に厳しかったように思います。

加藤：東大は2月25日と26日に筆記試験があって、27日に面接です。26日までで全力を使っていたので対策はしませんでした。「面接は適性のない人を落とすためのものだ」とも聞いていたからですが、面接官からの圧迫はそれなりに強いと感じました。

聞かれたことは、医師の志望動機や東大の志望動機の他に、「医師になったら何をしたいか？」や「海外に行ったら何をしたいか？」といった具体的なビジョンでした。

慶應大は前日に準備しました。具体的なことを聞かれると知っていたので、具体的な医師像としてのビジョンを紙に書いておきました。それから、慶應大の良いところを探したり考えたりしてまとめることもしていました。

慶應大よりも面接が厳しかったのは順天堂大です。待機室に座っている時も上の窓から受験生を見ている人がいたようです。

対策としては、順天堂大学の教育理念を聞かれたことがあると知っていたので、それだけ覚えていました。

面接では面接官がフレンドリーである一方、質問はきつい内容でした。高2の時にディベート大会に出ていたので、「順天堂大のほうが慶應大よりも良いということを英語で論じ



加藤 仁規さん（東大理Ⅲ・開成）

てください」と言われ、かなり困りましたが、何とかしました。

それから、「医療トピックをできるだけ列挙してください」と言われて2個しか答えなかったら、「それだけ？」と言われてしまいました。

後輩へのアドバイス

飯塚：大きく3つあります。

ひとつめは、自分の課題をしっかり認識してほしいということです。勉強に自分なりに意味を見出すことが大切です。問題集を何周するとかは無意味ですし、音読もお経読みでは効果がありません。自分なりに課題を見つけて「ここを改善するぞ」という意気込みを持って勉強してください。

ふたつめは、グノは質問や添削への対応が充実しているので利用してほしいということです。

最後は、ゴールを見据えてほしいということです。合格までの時期を考えて、「今は理科に手が回らないけれど、直前1年でやるから大丈夫」と計画したり、自分が頑張った教科なのに思ったように効果が出ていなければ勉強法を見直したりと、ゴールに合わせて臨機応変に勉強しましょう。

湯本：自分の点の取り方や自分の勉強の仕方を信じてください。数学で何点取って、英語で何点取るといったことは、人それぞれで違います。



湯本 蒼也さん（慶應義塾大・駒場東邦）

自分の勉強法を信じて貫き通せると勉強も続けやすいと思います。

僕の場合は、「グノの勉強法が合っているし好きだ」と思っていたので、それを信じて集中しました。あちこち手を出さなかったのが結果として良かったと思っています。

岡田：湯本君の言うとおり、自分に合う勉強法を見つけてください。

僕は同じことを何度も繰り返す勉強法が合っていて、それを信じていました。

それから、自分と同じくらいのレベルで、同じ大学を受ける人と励まし合いましょう。僕には同じレベルの友人がいました。直前期にも、簡単な会話を交わすだけでも元氣もやる気も出ますし、安心もできます。そういう友人からのアドバイスには素直に耳を傾けられるし、自分と同じ境遇なのでの確です。

とにかく自分に合う勉強法や友達を見つけるのが一番大事です。

真木：まずは自分に合った勉強法を見つけて、受験期までその勉強法を貫くのが大事です。

グノの音読を継続することで学校でもアドバンテージをとれるようになり、受験でも自信が持てるようになりました。

数学のセルフチェックシートを理科や他の科目に応用してみるのも良かったです。

特に、物理のセルフチェックシートを自分で作ったら、理科でもアドバンテージが保たれて、それが受験期には精神的な支えになってくれました。セルフチェックシートは後輩の皆さんに勧めたいです。

そして、グノは質問しやすい環境ですから、メールでも何でもいいので、積極的にガンガン話しかけて、有効に活用してください。

加藤：勉強を早く始めたほうがいいです。

そして、ただ勉強するだけでなく、



真木 大地さん（東京医科歯科大・浅野）

問題意識を忘れないようにすることが大切です。

「目の前にある問題をどうやって解けるようになるか？」「試験本番でどうやったら解けるようになるか？」を真剣に考えてください。

自分を信じることが大切です。僕は直前期にちょっとセンシティブになって、救いを求めて理Ⅲの合格体験記を読んだら、「模試はA判定でセンターも良かった」と書いてあって、逆に落ち込みました。でも、本格的に勉強を始めてからは、自分なりに満足できるように勉強してきたつもりだったので、そこで自分のやってきたことを信じました。

自分を信じることと、最後の最後に自分を信じられる努力をしてください。

山東：グノで長らく英語を習っていましたが、一刻も早く復習や音読を習慣化すべきです。

それから、勉強していて疑問が生じたら、先生に直接聞きに行ってもいいですし、それが苦手ならメールでも質問できます。疑問を解決できるシステムを最大限に利用してください。勉強以外でも、進路の悩みに親身になってくださるのがグノの先生ですから、存分に頼ってほしいと思います。

グノーブルの授業は、 皆さんと私たちの合作。

一方通行の解説ではないので眠くなることはありません。

- 「家で宿題、塾で答え合わせ」という古いスタイルを打ち破っています。
- 授業中に集中して演習できます。私たちはその答案をその場で添削します。
- 演習直後の解説は、私たちと皆さんがやり取りしながら進めます。
- 皆さんが楽しく効果的に取り組める教材を、毎週新しく配付します。

熱中できる仕組み、質問も相談もすぐにできる環境を実感してください。

大学受験



Gnoble

大学受験 グノーブル

難関大学・医学部を目指す中1生～大学受験生

本物の知的体力がますます求められています。その知の力を伸ばすのに最も大切な要件は、前向きになれる、知的刺激にあふれた環境で学ぶことです。授業形式、教材、そして、教職員の接し方に至るまで、皆さんが意欲的になれる環境を整備し、難関大学・学部を目指す皆さんをしっかりサポートしていきます。

中学受験



Gnoble

中学受験 グノーブル

難関中学を目指す小学生

最新の入試傾向に対応したカリキュラム、精選されたオリジナルテキストを基に、経験豊かな講師陣が一人ひとりに向き合った双方向の授業を展開し、難関中を目指す子どもたちを導いていきます。学習したい教科や志望校別のクラスが選択できるなど、中学受験に関するさまざまなご要望にお応えしていきます。

個別指導



GnoLink

個別指導 クリック

難関校を目指す小学生～大学受験生

生徒一人ひとりに心を配り、その子の持つ可能性を追求します。学習状況に合わせて、講師1名に生徒2名、あるいは生徒1名の完全個人指導体制を提供します。中学受験・大学受験グノーブルと並行して通うことも可能です。グノーブルオリジナルテキスト等も併用しながら、個別に対応します。

英会話



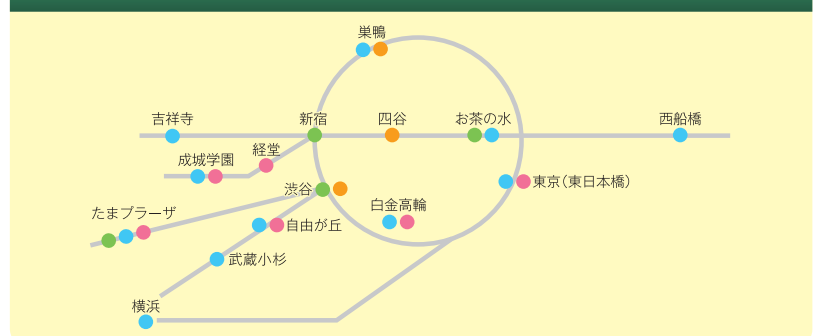
GnoKids

英会話 グノキッズ

0歳児～小学生

さまざまな楽しい英語体験を通して、聞く、話す、読む、書くの4つの力を伸ばします。先生2名に生徒は8名程のクラスで、ネイティブの英語に触れ、親むことができます。ご家庭での学習も配慮した教材で、継続的な学習を無理なく行うことができます。

Gnoble グループ 各校舎所在地



Gnoble
GROUP

大学受験 **グノーブル**
個別指導 **グノリンク**

中学受験 **グノーブル**
英会話 **グノキッズ**

グノーブル総合案内

www.gnoble.com